

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
小学校	20代以下	<p>子供の目がキラキラしている時、私もとてもうれしくなります。 教員はたくさんの「ありがとう」がもらえる職業だと思いました。 1年目ですが、たくさんの子供たちの笑顔に出会うことができました。</p>
小学校	20代以下	<p>初めて女子バレーボール部の顧問をしたときのことです。 顧問である私が体育館へ行っても、体育館は「シーン」と静まり返っていました。私が挨拶をしても微かに聞こえる「こんにちは・・・」バレーボールの技術を教えることも大切ですが、挨拶や礼儀も教えていかなければいけないと感じました。私は養護教諭であり、「養護教諭は優しい」というイメージがあるので躊躇しましたが、どんなに嫌われようとも、毎日のように挨拶のことを言い続けました。 だんだんと体育館に大きな「こんにちは！」が響き渡るようになり、部活動中も活気が出てきました。新人戦の日、今まで以上の大きな「ありがとうございました」という言葉を聞き、とても感動したのを覚えています。 挨拶はどこに行っても使います。彼女たちは、挨拶という宝物を持って、高校生、社会人になっていくと思うと、どこでもやっていけると信じています。</p>
小学校	20代以下	<p>仕事を始めてから、初めてけがで保護者を呼び、早退した子どもを見送ったときに、笑顔で家に帰る子どもを見送ることが当たり前ではないのだと実感しました。毎日笑顔で元気に家に帰れるように自分に何ができるのか、その当たり前を守るために自分に何ができるのかを日々考え仕事をしなければと強く感じた出来事でした。翌日笑顔で報告しにきてくれた子どもの笑顔はずっと忘れられないと思います。</p>
小学校	20代以下	<p>私が教育の仕事を通じて得た喜びは、子供たちの「できた！」という瞬間に立ち会えたことです。 できなかったことができるようになった時、子供たちの表情は自信に満ちあふれています。</p> <p>体育の時間、前跳びができなかった児童が、悔しさのあまり泣き出してしまいました。 好きな食べ物をリズムで表し、リズム良く縄を跳ぶことの練習を行いました。楽しみながら練習を重ね、家に帰っても自主的に練習をしていたそうです。 ある日の休み時間に「先生、見てて！」と、リズム良く前跳びをする姿がありました。 とても嬉しそうに、目を輝かせていた姿には、胸を熱くさせるものがありました。</p>

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
小学校	20代以下	<p>一年生の時から給食が苦手で、いつも残すか担任に言われて嫌々口に運んでいたAさんとBさん。二年生の一学期も同じような様子が続いていました。</p> <p>私は、とにかく一口分にしてみてもいいからと、お皿から全て無くして完食することを目標にしました。本人たちに毎日、これなら完食できそうか確認し、完食できたらシールを貼って、クラス全体で喜び、励まし合いました。</p> <p>二学期になり、秋になった頃、二人の様子が変わり始めました。今では、担任から声を掛けて確認していた給食の量を、自分たちで「もう少し減らして。」や、「これくらいなら大丈夫。」などと、給食当番の子に自分から伝えられるようになり、完食できる日が続くようになりました。すると、給食以外の面でも成長を感じられるようになってきたのです。今までは自信がなく、手をなかなか挙げられずにいましたが、たくさん手を挙げ、発表する姿が見られるようになりました。また、ノートの自分の考えもたくさん書けるようになり、一日の中の笑顔の時間が増えました。</p> <p>私はこの二人の児童の様子を見ていて、自信を持つことの大切さを感じさせられました。また、児童が自信を持って楽しそうに生活している様子を見られる事。それこそが私が教育者としての生活を送るうえでのエネルギーとなっているのだとも感じています。</p>
小学校	20代以下	<p>私は、小学6年生から小学校教諭になりたいと思っていました。</p> <p>夢に向かって挑戦する大切さは小学生からずっと学んできました。</p> <p>今でも、何事でも挑戦し続け必死に、頑張っていきたいと思います。</p>

※エピソードをお寄せいただいた皆様の思いを尊重し、個人が特定できる記述、明らかな誤字・脱字等を除き、文章は改変せず掲載しています。

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
小学校	20代以下	<p>6年前、初めて担任した子供たちがこの春、卒業して中学生になりました。私は、4月に初めて異動し、初めての学年を担当することになりました。4月8日、始業式の日。3時間だけでしたが、新しい環境で初めての子供たちと過ごす1日はとても長く感じ、新しい環境になることはこれほどまでに大変なのかと痛感しました。</p> <p>学年の子供たちを下校させて、職員室に戻ってくると机の上に見覚えのある文字で書かれた葉書がありました。この春、中学生になった初めて担任した学年の男の子からでした。</p> <p>昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学校行事もなくなるなか、離任式もありませんでした。もちろん3月に小学校を卒業した彼らにも、お別れの挨拶もできずに学校を去りました。</p> <p>葉書には、「卒業式で校長先生に、卒業証書を渡す係をしてくれてありがとうございました。先生からもらえて嬉しかったです。新しい学校でも、ずっとずっと元気いっぱい先生でいてください。僕も頑張ります。」とありました。</p> <p>内容もそうですが、新しい学校の住所を調べて送って来てくれたことがとても嬉しかったです。今年は、初めての卒業生。3月までの残りの時間、精一杯子供たちと向き合いたいと思います。</p>
小学校	20代以下	<p>去年、自分が初めて担任をもった4年生の話です。コロナでなかなか学校再開にならず、始まって行事もできないもどかしい学年でした。初めてでいきなり圧縮して授業を押し込めて行ったり、心が不安定になる子に対してどうしたら良いかわからないながらも、自分が一番楽しんで授業をやるように心がけていました。でも厳しく当たっていたので嫌われているだろうと思ってその学年とはサヨナラしました。</p> <p>それから半年経って、私の誕生日にクラスの4人からお手紙をいただきました。その内容は、「先生の厳しさは私たちのことを思ってたくさん見てくれたんですよね。先生の言ってくれたことは今も忘れません。引っ込み思案だった私がこんなに成長できたのは、思ったことははっきり言う。と言う教えからです。先生のように一生懸命5年生も頑張っていきます。」と言うものでした。そう言った彼女は、自分の信じた道を自信をもって進んでいます。</p>

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
小学校	20代以下	<p>4年生の総合学習での「2分の1成人式」。コロナウイルスの関係で、合唱コンクールに出場できなかったため、2分の1成人式でクラスの歌を披露することにした。最初は声も小さく、姿勢もフラフラとして気持ちの伝わらない合唱でしたが、本番が近づくにつれ、気持ちも高まり、上手になってきました。しかし、どうしてもみんなと一緒に歌うことに抵抗があり、歌う姿勢になれない児童がいました。変声期で、思う通りに歌えないことが気になり、やる気が起きなかったのです。</p> <p>繰り返し声をかけ、「クラスみんなで歌いたい」「みんなの声を合わせたらきっと感動する」と声をかけました。恥ずかしさもあり、なかなかあと一歩が踏み出せない日が続きました。</p> <p>本番。指揮を振るためにクラス全員の前に立つと、初めて全員の目が私に集まり、ピンと張り詰めた空気が流れました。歌い出す前に、「これは今までで一番良い歌になる」と感じました。</p> <p>歌い終わり、無事に「2分の1成人式」が終わると、クラス全員がやり切ったという顔をしていました。クラスの心が一つになった瞬間を肌で感じる事ができ、忘れられない瞬間になりました。</p>
小学校	20代以下	<p>担任している3年生の児童に早い段階から夢をもってもらいたいと思い、私が小学生の時の夢の話をしました。6年生の時に、小学校の担任の先生に憧れて、小学校教諭になりたいと思いました。夢に向かって学校の勉強や運動を何でも頑張りました。夢は変わらず、大人になるまでずっと貫きましたなどと話しました。</p> <p>そして、ある日、クラスのある児童から、「先生、子供の頃の夢が叶うなんてすごい！」と言われました。</p> <p>そんな風に褒めてもらえると思っていなかったのも、とても嬉しかったですし、この仕事を大切にしたいと思った瞬間でした。夢を持ち続ける大切さを少しでも伝えられたかなと思いました。</p> <p>児童には、時々、「先生いつも勉強を教えてくれてありがとう。」などと書かれたお手紙や折り紙などをもらうことがあります。よし、頑張ろう！という気持ちになれます。</p> <p>元気な児童となると、私自身も明るくなれます。毎日、楽しいです。毎日、笑顔であり続けることをモットーに生活して、笑顔あふれる学級・学校にしたいです。</p>
小学校	20代以下	<p>休みがちな生徒が「今日は給食で〇〇が出るから学校に来た」と言ってくれたこと。学校に来る楽しみを作ることができる。</p>

※エピソードをお寄せいただいた皆様の思いを尊重し、個人が特定できる記述、明らかな誤字・脱字等を除き、文章は改変せず掲載しています。

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
小学校	20代以下	<p>私は今、小学校で事務職員として勤務しています。事務職員の仕事として、学校の予算運営を行うことが1つの仕事としてあります。「こんな教材があればもっと授業の幅がひろがる」など、日々教員や管理職と話し合いをしながら、消耗品や備品の手配、設備の修繕等を行っています。</p> <p>事務職員として働き始めた時にはこの仕事を「必要なものをお金で買う」という、ただそれだけのこととして捉えていました。しかし、子ども達や教職員から、「この〇〇すごい使いやすい！」「ここが危なくなかった！」など、感謝の言葉をもらったことがありました。モノを買ったその先には、子ども達の笑顔・楽しく安全に過ごせる学校生活へと繋がっているんだと感ずることができた瞬間でした。</p> <p>学校事務職員は、教員と比べると子ども達との関わりが多い職ではありませんが、自分の行っている日々の仕事は、必ず子ども達や学校職員を含め、誰かのためになっているんだと意識を持って仕事行っています。</p>
小学校	30代	<p>「私の宝物」</p> <p>学年主任の影響で取り組み始めた学級通信。はじめは何を書けばいいのか悩み、途中で挫折そうになったこともありましたが、保護者との連携を図るうえで最も効果的だと思い、続けていました。</p> <p>令和三年度、二年間持ち上がった子どもたちを六年生でまた担任しました。とても嬉しく、どんな一年になるのかワクワクしました。しかし、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、二ヶ月間休校。六月に学校が再開しても、感染症対策で行事は縮小。保護者が学校に来る機会も減り、「最後の一年、このまま終わらせたくない。」その気持ちから子どもたちと楽しめる取り組みを増やし、その様子を保護者に伝えるべく、今までA4サイズで発行していた通信をB4サイズに変え、毎週発行するように力をいれて取り組みました。</p> <p>年度の終わり、一年間を通しての感想の記入をお願いしてみました。どんなことが書かれてくるのか、どのくらい書いてもらえるのかなど怖い気持ちもありましたが、なんとクラスの九割の保護者が提出してくれました。それだけでなく、どの保護者も「毎週楽しみにしていました。」「発行ありがとうございます。」などの嬉しい言葉を多く書いてくださり、自分のやってきたことは間違っていないのだと感ずることができました。</p> <p>今でも気持ちが挫折そうになった時には、その感想用紙を読んでパワーをもらっています。</p> <p>子どもたちのために、これからもできる限りのことをしていきたいです。</p>
小学校	30代	<p>子ども達の笑顔を見るととても嬉しくなります。「楽しかったよ」「できるようになったよ」「もっとやりたいな」沢山のやる気に満ちた言葉と笑顔に会えるのが毎日楽しみです。たくさんの可能性を秘めた子ども達が、将来キラリと輝けるよに出会いを大切にしていきたいです。</p>

※エピソードをお寄せいただいた皆様の思いを尊重し、個人が特定できる記述、明らかな誤字・脱字等を除き、文章は改変せず掲載しています。

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
小学校	30代	<p>授業をしているときに「わかった」「できた」と笑顔になると教師のやりがいを感じます。どうやったらわかりやすくなるかな。どうやったら楽しく学習ができるかなと考えているとき、子供たちの反応を想像し、それが当たると子供と通じ合った気がしてさらに励むことができます。</p> <p>子供たちの達成感を味わわせることができるのが魅力です。</p>
小学校	30代	<p>いつもキラキラしている瞳。</p> <p>何事にも前向きにチャレンジする姿。</p> <p>未来に向かって、全力の子供たちを、全力で支える教員でありたいです。</p>
小学校	30代	<p>1学期にお楽しみ会をしたときには、ケンカをしてしまうなどのトラブルが起きてしまっていました。そこで、2学期には最後まで楽しくできるようにしたいと考えました。その後、特に気をつけたのは普段の生活の中でのコミュニケーションです。授業中など、児童同士で話し合う機会を増やしました。失敗をすることもありましたが、その中で協力し合うことの大切さを学ぶことができました。</p> <p>2学期は、子供達が自分たちでルールを考え、楽しく遊ぶことができ、子供たちの笑顔が印象的でした。</p>
小学校	30代	<p>私は現在、小学校の特別支援学級で支援員の仕事をしています。ある日、国語の授業で児童Aに国語辞典の使い方を教えました。何回かやって使いは理解したもののその後すすめても活用する気配はなく、少し寂しく思ったのですが彼には合わなかったのだろうと思い、無理に使わせることはありませんでした。しかし後日、他の先生づてに「Aが家での漢字の学習でわからない語を国語辞典を使って探している。辞典を使えることがとても嬉しい。」と保護者が言っていたと聞きました。</p> <p>私はその話を聞いて少し恥ずかしく、また胸が熱くなる思いがありました。私が彼にとってあまり役立つものではなかったなと思っていた知識は、決して無駄ではありませんでした。ただそれを活用している場が目に入らなかっただけで、学びはきちんと彼に届いていました。また得た学びを活かそうという思いはどんな児童にもあることに気づき、彼がそれを自ら判断し生かそうと行動した意欲に、ハンディキャップがあっても児童の未来には無限の可能性が広がっていることを実感しました。そして彼のことをとても誇らしく感じました。これからも、たとえ思ったような反応が得られなくとも、学びという力は彼らに届いていると信じて、彼らにとって良いこととは何かよく考えながら児童を支援していきたいと思えます。</p>

※エピソードをお寄せいただいた皆様の思いを尊重し、個人が特定できる記述、明らかな誤字・脱字等を除き、文章は改変せず掲載しています。

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
小学校	30代	出張等でクラスを空けた翌日、教室に入るなり、「先生あのね！昨日こんなことをがんばりました！」「みんなで〇〇しました。」「〇〇さんが給食を全部食べられたよ。」と、頑張った報告の嵐でした。子供たちの笑顔と、友達と協力して過ごしたことを一生懸命伝えようとする姿がなんとも言えないほど可愛く、キラキラしていました。
小学校	30代	体育の時間、逆上がりの技の習得に向け、クラスみんなで練習に励んでいました。「逆上がりができるようになりたい」という気持ちが強く、休み時間や休日にも練習する子供たちの姿がありました。その成果もあり、徐々に逆上がりができるようになる子が増えてきました。できるようになった子は、進んでコツを友達に伝えにいき、励まし合いながら練習に取り組んでいました。鉄棒発表会の前日練習日、子供たちはいつも以上に練習に熱が入っていました。あと一人で全員逆上がりを習得できるグループがありました。祈るように、その子を見守る仲間たち…。ついに逆上がりできた時、みんなからの歓声が。「できた！」と喜ぶ子供と「すごい！」「よかったね！」「やったね！」と自分のことのように喜ぶ子供たち。私もとても嬉しかったです。やっぱり、子供のできた時の笑顔は最高です。そして、自分のことのように喜ぶ子供たちの素敵な心。子供からたくさんの感動をもらっている分、子供たちに明るい未来を与えられるよう日々、子供たちと接し、指導していかなければと感じました。
小学校	30代	朝、教室へ行ったときである。ある男の子が「何か俺の机の上に消しゴムのかすがすぐある」と不満を口にしていた。実は前日に教室で補習授業があり、別の子がその男の子の机を使ったのである。すると隣の女の子が「私の机にもあったよ。でもいいじゃん。そんなこと。広い心をもちなよ」と一言言った。私は、男の子が何と答えるのか興味をもって耳を傾けた。すると「それもそうだな。消しゴムのかすくらい捨てておいてやるか」といつて片づけた。今日、人の失敗や悪いところをSNS等ですぐに攻撃する世の中であるが、こうした、広い心で許す気持ちというのは大切なのではないだろうか。未来を創る子供たちにはこうした気持ちをもたせていきたいと思う。 学級担任をしていると子供たちにとって何が大切なのだろうかと考えることがある。その中で、人とのつながりが大切なのではないかと思う。体育の持久走の時の出来事である。持久走の授業では走る子とコーチングをする子でペアになって活動をする。持久走が大の苦手なAさんが走っていた時のことだ。ペアのBさんが一生懸命応援したり、伴走したりして励ましていた。1週のラップも伝え、真剣にアドバイスもしていた。そして、Aさんは、素晴らしいタイムで完走することができた。授業の最後に振り返りでAさんに感想を聞くと「Bさんのお陰です。」と答えた。Bさんはとてもうれしそうな笑顔でいっぱいだった。教室への帰り道Bさんが「人の役に立つことってうれしいな」と言っていた。こういう経験が子供たちにとって大切なのではないかと考えさせられた。

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
小学校	30代	<p>現在担任をしている4年生のA君は、運動があまり得意ではありません。でも、いつも体育を汗びっしょりになってがんばっています。A君は今までずっと、鉄棒で逆上がりができませんでした。私は、そんなA君に逆上がりができるようになってもらいたいと思いました。</p> <p>鉄棒の授業では、毎時間のはじめに雲梯や登り棒に取り組み、棒を握ったり体を振ったりする感覚をつかめるようにしました。板や腰に巻くベルトなどの補助具を使ったり、そばについて補助をしたりするようにしました。するとA君は、休み時間にも自分で鉄棒の練習をするようになりました。</p> <p>そして、ある日。A君が、補助具も誰かの助けも借りずに逆上がりを成功させました。練習を重ねた汗と、高揚した気持ちで真っ赤になった顔で、A君が言いました。「先生、ぼくね、初めて逆上がりできて、幸せだよ。」</p> <p>10歳になる子どもたち。授業参観で、二分の一成人式を行いました。10年間できなかったことが、初めてできたA君。10年後に成人式を迎える頃にはきっと、たくさんのことができるようになっていようと思うと、未来がとても楽しみです。</p>
小学校	30代	<p>ある日、教え子から手紙が届いた。私への感謝の手紙だった。手紙を読むと、その子は陸上部に所属し、長距離選手として活躍していることが綴られていた。今でもくじけそうになるときは、私の言葉を思い出すと言う。その言葉は、文集で卒業生に向けて書いたものだった。本当にうれしかった。子供は、教師の思う以上に教師のことを見ているのだ。それをどう捉えるかは子供次第。だからこそ、これからも自分に誠実に生き、誠実に子供と向き合いたい。</p>

※エピソードをお寄せいただいた皆様の思いを尊重し、個人が特定できる記述、明らかな誤字・脱字等を除き、文章は改変せず掲載しています。

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
小学校	30代	<p>冬に差し掛かるころ、一昨年度から2年間教えた教え子がお手紙をくれました。中学生になったその子の手紙は便せん3枚にびっしりと書かれており、上手な敬語も見られてすっかり大人になった様子でした。読むと、「先生からいただいたアドバイスや、先生が毎日話してくれた未来を見据えた話の価値がようやくわかるようになりました。そのおかげで、自分に厳しく、自分の未来に必要な努力を自分で考えて自分で出来ています。また、毎日行った日記も、あの時はめんどくさい宿題だったけれど、今思うと、そのおかげで文章を書くことへの取り掛かりが周りよりも早くできているのだと感じています。毎日やった百人一首も続けたくて、今はかるた部に入っています。」と書かれていました。その子の手紙を読み、報われた気がして嬉しくなるとともに、少し怖い気持ちも感じました。それは、私たち教師は、自分たちが思っている以上に子供たちの未来を創る一因になっていることに改めて気づいたからです。忙しい日々の中では、「今の自分が子供の未来を育てている」とう実感はなかなか感じられません。しかし、私たち教師が毎日かける声、伝えるメッセージ、取り組む活動の1つ1つが、子供たちの未来を1つずつ確実に構築しているのです。教職は毎日の仕事が多く、疲弊して帰ることがほとんどです。「こんなに疲れるまで何してんだらう。明日は適当にこなそう。」なんて思うこともたくさんあります。学級経営がうまくいかず、投げやりになるときもあります。でも、子供たちの未来をダイレクトに育てることができるこの仕事が私は好きです。この子の手紙のおかげで、仕事を頑張ろうと思えました。子供の未来を創っている自負と誇り、責任をもって、残りの教員人生が少しでも子供たちをよりよい未来へ導くものになるよう、これからも頑張っていきたいと思います。先生方もぜひ、久しぶりに教え子と交流する機会をもってほしいと思います。自分自身が頑張ってきた証が目の前にあるはずです。</p>
小学校	30代	<p>子どもの頃、学校が大好きだった私。たくさんの素敵な先生や友達と出会い、教師になることを決めた。なんと、今年の職場には私が子どものころにお世話になった先生が3人もいる。私自信も多くの先生方に育ててもらったんだなぁと改めて感じた1年であった。そして次は私の番。よし、がんばるぞ。</p>
小学校	30代	<p>8年前担任した6年生。今年で20歳を迎える。タイムカプセルを掘り起こすというので、当時担任だった私も呼ばれ、懐かし学舎に集合。12歳だった頃よりもかなり大人びた印象を受けたことを今でも覚えている。子どもの成長って早いものだと感じた。仕事をしている子、進学している子、人それぞれの道を歩んでいるようである。その中で、「俺、教師になりたいです。」と言っていた子がいた。「なんで？」と尋ねたら「先生みたいに熱くみんなを導ける人になりたいから。」と言っていた。今まで、人のお手本になるような人生を歩んできたわけではないが、その一言で「教師をやってよかったな」と思った。</p>

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
小学校	30代	<p>「おかげ様で」この言葉は、教職の世界にお世話になった時から大切にしていることです。毎日元気に登校してくれる児童生徒、子供を送り出してくれる保護者の方、職場では支え指導してくださる先輩方。どこか一つでもかけていたら成り立たないと日々感じています。この大切な繋がりを大切にできるよう、自分自身にも人にも嘘をつかず「おかげ様で」の気持ちを胸に職務に専念したいと思います。</p>
小学校	30代	<p>私は前職で不登校生徒の支援をしていたのだが、不登校の生徒の中には発達障害を抱え、クラスになじめなかったり、勉強についていくことができずに、苦しんでいる生徒がいた。そんな生徒と関わるうちに、発達障害を持つ子をもっと早い段階から支援していくことが必要だと強く思うようになった。それがきっかけで私は小学校で支援員として働かせていただくことになった。</p> <p>小学校での支援員スタートは離席や脱走、パニックを起こすA君の支援であった。校長先生や担任の先生、行政機関の方々と相談しながらA君の支援を進めるがなかなかうまくいかない。今日は良くて、明日も良いとは限らない。</p> <p>「どうすればよい方向へ向かうのだろう。」</p> <p>とっているうちに日々が過ぎていく。そんな日々の繰り返しであつという間に1年が過ぎてしまった。A君は6年生になった。少しずつ変化が現れた。席に座ってられる時間が増え、パニックを起こすこともほとんどなくなった。たくさんの先生方の支援や、保護者の意識の変化、そして何よりA君自身の成長がこのような変化となって現れたのだろう。</p> <p>A君は無事に卒業の日を迎えた。無事に卒業証書を受けとった姿を見たときは、涙が出た。</p> <p>中学校でも時々パニックを起こしたようだが、暖かい先生や友達に恵まれ、無事に卒業し、高校へ進学することになった。中学校の卒業式、高校の入学式と制服姿で小学校に挨拶に来てくれた。A君なりに伝えたい思いがあったのだろう。</p> <p>A君の支援を始めた当初、私はすぐにA君の状況を改善しなくてははいけないと思っていた。しかしそんなに簡単なことではないのだ。1人1人成長のスピードも違うし、支援方法も違う。A君もA君の家族もたくさん苦しんだのだと思う。もっと長い目でゆったりとした気持ちで支援すべきだったと反省している。</p> <p>通勤の時に自転車で高校に向かうA君とすれ違うことがある。元気に通っている姿を見て、朝から嬉しい気持ちになる。そしてその度に思う。</p> <p>「今苦しんでいる子たちもきっとA君みたいに立派に卒業していくよ。」と。</p>

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
小学校	30代	<p>初任校での5年目、最後の1年間でもったクラス。とっても楽しいクラスでした。トラブルもたくさんありました。でも、そのたびにみんなで話し合い、解決をしてきました。学校あげて取り組んでいた長縄にも、みんなで全力で取り組み、悔し涙、うれし涙を流しました。児童一人一人が成長できるよう、私も毎日悩みながら、でも笑顔を忘れず、全力を尽くしました。</p> <p>そんな1年が終わるころ、1人の児童が手紙をくれました。そこには、 「先生、私は今まで、将来の夢は特にありませんでした。でも、今年1年先生と過ごして、私の夢は『小学校の先生』になりました。先生のように、いつも明るく、子どもたちのことを考えられる先生になりたいです。」とありました。</p> <p>嬉しさや、驚きや、恥ずかしさや、いろいろな感情がわいてきて、涙が出てしまいました。</p> <p>あれから7年。学校も2回変わり、今も忙しい毎日を送っています。これからも、すてきな夢をもってくれたあの子に恥じないよう、日々、がんばっていきます。</p>
小学校	30代	<p>児童が疑問に感じたことを可能な限り解決できるような授業づくりを心がけていきました。教材研究では、児童の気持ちを考えて、どのような展開になるか見通しをもちながら準備をしました。色々な可能性を準備しても、いざ授業をすると、その予想を上回ってくるという機会は多々ありました。児童の考えは豊かだなと感じます。そして、その考えを大切にしていけるためにも疑問に思ったことを解決できる場づくりを可能な限り努めました。試行錯誤の繰り返しでしたが、児童から「よくわかりました。」「楽しかったです。」等の言葉をもらえるとまた頑張ろうと思えます。教師も児童と一緒に日々成長だなと感じます。</p>

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
小学校	30代	<p>異動した学校で出会ったある児童。担任ではなかったけれど、友達との関係がうまく築けないその子が気になった。休み時間になるといつもそばへ行き、一緒に遊ぶよう心がけていた。</p> <p>出会って数年が経ち、その子が5年生になったとき、私はやっとその子の担任になれた。休み時間は一生懸命に遊び、授業がつまらないと寝てしまうその子。くやしくて、その子が面白いと思える授業改善に取り組んだ。何度かの失敗を繰り返した後、気がつく、その子は寝ないで一生懸命に授業に参加するようになっていた。</p> <p>5年生の終業式の日、私はその子と一緒に泣きながら、お互いに「ありがとう」と言い合った。</p> <p>もうすぐその子は小学校を卒業する。今は担任ではないけれど、最高の卒業式にして送り出してあげたい。</p>
小学校	30代	<p>運動会で5・6年生合同で「組体操」を行いました。練習では一人技、二人技はできるようになったものの、三人技、五人技、全員技は難しく何度も失敗が続いてしまいました。本番前には成功していない技もあり、不安を抱えたまま本番へ…。</p> <p>当日ソワソワして朝礼台上で見ていた私をよそに、子ども達は気合いの入った掛け声を出し、完璧に技をこなしてくれました。どの技も美しく、練習以上の演技を披露してくれました。保護者、地域の方から称賛していただき、子ども達もとても誇らしそうでした。</p> <p>この運動会から「子ども達の可能性は無限大」であることを改めて感じました。上手いかわないことが続いても子ども達を信じて指導していき、成長を促していきたいと思います。</p>
小学校	30代	<p>「音楽なんて大嫌いだ！」音楽会へ向けての練習で、合唱練習に追われる毎日。何回練習しても、アルトとソプラノの音低がとれず、綺麗な合唱にはなりません。特に男の子は、外で思いきり遊びたい休み時間も練習することになり、少しずつやる気も失せてきました。このままでは、クラスもまとまらない・・・</p> <p>だんだん不安になってきましたが、子供たちは、諦めずに何度も何度も歌い続けました。最初は、練習に嫌々参加していた男の子達も、練習の成果が出始めると、笑顔が見られるようになり、進んで練習を行うようになっていきました。</p> <p>そして迎えた本番。緊張する中、クラスみんなの歌声が会場に響きわたりました。「ダメかもしれない・・・」と思っても、最後までやり続ければきっと子供たちへの思いは伝わる。そう感じた瞬間でした。</p>

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
小学校	30代	<p>保健室は、けがをしたとき、具合の悪いときに子どもたちがきます。子どもたちの泣いている顔、困った顔を見る方が多いかもしれません。ですが、後日「けがが治ったよ！」「元気になったよ！」と笑顔を見せにきてくれる子どもたちに元気をもらいます。</p> <p>「この前手当ての仕方を教えてもらったから、転んだときは傷口を洗うんだよって友だちに教えてあげたよ」と言って、保健室と一緒に付き添ってくれる児童もいます。思いやりの気持ちが子どもたちに広がっていくのを感じました。</p>
小学校	30代	<p>読書嫌いの児童は、読書感想文を書く授業が苦痛だと言っていました。そこで、休み時間に一緒に図書室へ行き、習い事や趣味などたわいのない話をしました。話の中から、児童が興味をもちそうな一冊を勧めました。初めは嫌がっていましたが、数日後、「先生が教えてくれた本、意外と面白かった。全部読んだ。」と感想を伝えに来てくれました。読書の楽しさに気が付き、そこから図書室に向かう回数も増えた児童は読書を通して自分の世界を広げ、逆におすすめの本を紹介してくれるようになりました。私自身も、児童から教えてもらった本を手に取りながら、世界を広げることができました。</p>
小学校	30代	<p>6年生を担任していた時、年間を通して人間関係で揉めていた女子6人組。時間を見ては、話し合いを設け、互いの思いや、今後について何度も話し合いました。</p> <p>卒業式の日、6人揃って、私のところに来て「あの時は、迷惑をかけてすみませんでした。これからは仲良くやっていきます。」と笑顔で伝え、卒業していきましました。</p> <p>彼女らの友情が中学校生活だけでなく、その先もずっと続いてくれることを願っています。</p>
小学校	30代	<p>小学6年生の時に担任したやんちゃで元気いっぱいの子供。</p> <p>卒業する時には、クラスみんなに声をかけ、サプライズでプレゼントをくれました。</p> <p>それから毎年、年賀状を送ってきてくれ、近況を教えてください。</p> <p>彼はもう大学1年生になりました。また、クラスみんなが集まりたいと言ってきています。</p> <p>将来の夢に向かって、着実に歩んでいるようです。</p>

※エピソードをお寄せいただいた皆様の思いを尊重し、個人が特定できる記述、明らかな誤字・脱字等を除き、文章は改変せず掲載しています。

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
小学校	30代	<p>初めて6年生を担当した時のことです。卒業式の前日。子供達からのサプライズで、歌と色紙のプレゼントがありました。その時私は、妊娠中で「元気な赤ちゃんを生んでください。」とのメッセージがとても嬉しかったのを覚えています。先日、その時の教え子に会いました。「先生、すぐに気づいたよ！」と声をかけてくれたこの仕事をしてよかったと改めて感じました。</p>
小学校	30代	<p>よい考えは持っているが、それを学級全体に発表することはなかなかできず、何とか自分を変えたいと思っている児童。 私は児童との日記を通じて、彼女を励まし続けた。ある日、彼女は「英語が好きだ」ということを彼女の母親から教えてもらった私は、「英語のスピーチをかんばってみては」と彼女に提案した。彼女はスピーチに向け、学校でも家庭でも何度も練習に懸命に取り組んだ。 いよいよ、本番のスピーチ。彼女は自信をもって、将来の夢を英語で語り、友達からたくさんの拍手をもらうことができた。彼女の満足そうな笑顔が忘れられない。 卒業式の朝、彼女は「英語のスピーチで私は自分に自信が持てました。いつも励ましてくださり、ありがとうございました。」という手紙を私に渡して、小学校を卒業していった。 周りから見れば小さな出来事かもしれないが、私にとっては大きな喜びであった。教師というこの仕事は、そんな喜びを味わうことのできるとても誇りある仕事である。</p>
小学校	30代	<p>運動会の学級対抗リレーで優勝したこと。 全員で休み時間を使い、バトンの練習を頑張り、練習では勝てなかったクラスに本番で打ち勝つことができた。 それ以降学級経営や、クラスの絆が深まり、結束してよかったと感じた。</p>

※エピソードをお寄せいただいた皆様の思いを尊重し、個人が特定できる記述、明らかな誤字・脱字等を除き、文章は改変せず掲載しています。

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
小学校	40代	<p>子どもや保護者のせいにしていた初任者としての勤務。先輩からの一言が転機となった。「お前、バスレクのネタをいくつ言える？プロなら10は言えるものだ。」自分の力の無さに気づいた瞬間だった。今でも10も言えないかもしれない。でも、覚悟はできている。</p>

「教師は授業で勝負する。」を教育信条としてこれまで教育活動に取り組んできた。

ある学校での離任式で子供たちからもらった手紙に書かれていた言葉は、今でも私の原動力となっている。

「・・・社会の水産業の授業がとても面白かった。社会が好きになった。」「・・・先生の授業がいつも待ち遠しかった。」「・・・授業で、いつも励ましてくれた。『よく見つけたね。すごいよ。』と声をかけられてとても自信がついた。」など、私の授業についてのコメントがたくさんあった。

小学校 40代

教師として、これまで力を注いできたことが認められたような気持ちになったこと、子供たちに学ぶことの楽しさを味わわせられたことが嬉しかった。教師になってよかったと思えた瞬間であった。

子供たちが大きくなり、自分の授業のことを「今でも心に残っている。」と言われたらどんなに嬉しいか。そんな授業ができるよう、これからも私は「授業で勝負する」教師を目指して、日々の教育活動に取り組んでいく。

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
小学校	40代	<p>数年前に、勤務していた中学校の生徒から、同窓会のお誘いがありました。小学校に勤務する前に、中学校で臨時採用をしていた時のことです。教員として、初めての参加する同窓会でした。みんな、大きく一人前になっていて、でも中学生のときの面影があって、とても懐かしく、嬉しい時間でした。その中で、英語を使った仕事をしていると話しかけてきた子がいました。当時私は、見様見真似で英語の授業を担当し、選択科目でWritingの授業をしていました。パソコンを使って英語で実際に海外の子へ手紙を書く活動をしていたのを思い出しました。話しかけてきた子は、その時に、興味を持っていろいろと質問してきた女の子だったのです。私は、自分がまいた種が、ずっとその子の中に残ってくれたように思い、とても励まされました。それ以来、この仕事では「種をまく」ことをたくさんしようと決めています。今、勤務している小学校では、低学年を任されることが多くあり、虫が好きな子に「ファーブル昆虫記」を紹介したり、朝の会や帰りの会で「月のクイズ」を出したりしています。一人の子が、大きくなるまで心に残るものを持たせられることは、この仕事の醍醐味ではないかと思って、日々頑張っています。</p>
小学校	40代	<p>高学年の外国語を担当しています。外国語は4技能あり、それぞれの児童がそれぞれの形で英語力を上達させています。人間には好き嫌い、得意不得意があります。まずはできることや、やりやすいところから少しずつ上達させていくことができるということを児童が教えてくれました。それが後で実を結ぶのだと思います。今後、外国人がより身近になろうであろう我が国で生き抜いていける力を、自らの手で養っている児童達をたくましく、そして心強く感じています。</p>

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
小学校	40代	<p>小学校で支援員をしていた時があります。 元々教員を目指していましたが挫折し、その時、わたしはまだ「教員免許」を持っていませんでした。 支援員として、1年生のあるクラスの子どもたちと一緒に生活する毎日。 入学当初は、ひらがなも書けない、計算もできない、すぐ泣く等々、1年生も、年が明ける頃にはとてもたくましくなり、色々なことができるようになっていました。 支援員という立場でしたが、子どもたちの成長に触れ、日に日に「教員になりたい。」という思いが強くなりました。 そして、その年の3月、「みんなと一緒に修学旅行に行く！」と一年間一緒に過ごした1年生と約束をして、わたしは支援員を退職、もう一度「教員免許を取る」という夢に挑戦するべく大学へ通い始めました。 それから2年、現在、小学校の教員として働いています。 一緒に修学旅行に行く約束した子どもたちのいる学校ではないので、今4年生になったその子どもたちは、わたしが教員になったことは知らないかもしれません。 その子どもたちとの出会いで、わたしは自分の夢を叶えることができました。 子どもとの出会いで人生が変わる大人もいる、そんなことを教えてもらった気がします。 今度、あの子たちに会えたら「先生にしてくれてありがとう。」と伝えたいです。</p>
小学校	40代	<p>私は、目の前の子供が成長する瞬間を見ることが出来ます。それが私のなりたかった職業です。夢が叶って嬉しいです。保護者に「私は、子供が成長する瞬間を見ることが出来ます。本当にいい仕事につけたと思っています。」と、伝えると保護者の皆さん喜んでくださいます。今日は終業式、子供達「先生、よいお年を！」ととびきりのいい笑顔で帰って行きました。 冬休みが明日から始まります。 3学期、子供たちに会えるのが本当にもう待ち遠しいです。 私の仕事は、本当によい仕事です。</p>

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
小学校	40代	<p>まだ学級担任だったころ、3年生、6年生と2年受け持った子供たちの卒業式の日。いろいろな出来事があり、思い入れのある子たちだったので、感動させてやろうと、最後の学級活動で思い出話を卒業ソングのBGMと一緒に聞かせることを考えていました。ところが、話が終わると、おもむろに子供たちが教室から出て行き、戻ってくると、一人一人の手には花が。「今までありがとうございました。」と一人ずつ35人から花を手渡され、思わずこちらが号泣。最後には学級委員の保護者まで現れて花束と寄せ書きをいただきました。思わぬサプライズでしたが、一生懸命担任として頑張ってきてよかったなと思えるよい時間となりました。そんな彼らも今では30歳くらい。何をしているのかなと、ときどき思い出します。私も今では教頭になりましたが、あの時の気持ちを忘れずに、教職一筋に今も頑張っています。</p>
小学校	40代	<p>「私は、6年生になって、先生ってすごいなと思いました。5年生のとき、全く笑顔を見せなかったAくんも6年になって毎日笑うようになりました。私は笑顔があふれる6年〇組が大好きでした。先生もそうだったと思います。」この手紙は10年以上前に卒業した児童からもらった手紙の文章であり、私の教職員としてのエネルギー注入材となっています。</p> <p>当時、私は臨時的任用教職員として、新しい学校に赴任しました。初めての6年生の担任ということではりきっていたのを思い出します。担任した学級には、課題を抱えている児童が数名いたのですが、その中に笑顔も見せず、言葉も発しないA君がいました。そのA君には、他の先生方も同級生も、あたらず触らずの姿勢で接しているように見えました。私には昨年度までの先入観がなかったせいもあり、一方的に話しかけ、周りの同級生も巻き込み、その児童と接するようにしていました。周りの児童が積極的に関わり始めたことで、2学期半ばには、笑顔を見せ、友達と会話するA君の姿が見られるようになりました。この事だけに限らず、教師としての働きかけで、多くの児童を変えられることを体験した1年でした。私もこのクラスが大好きでした。この当時、小学校教員免許を取得するために、担任をしながら、通信教育のレポート作成をする日々が続いていました。途中心が折れかけそうな時もありましたが、私自身が児童に支えられがんばることができました。</p> <p>私は卒業生とともに、その学校を去ることになりましたが、離任式で久しぶりに戻った際、卒業生たちは中学校の部活動の初日でこ来られませんでした。その代わり数名の保護者が手紙や写真を届けてくれました。冒頭の手紙はその中のひとつです。</p> <p>その後、埼玉県の教職員として採用され、担任として多くの児童に深く関わることができました。どの年もたくさんの思い出があります。その中で、自分の思い通りにいかないことや、慣れによって気が抜けたような時期もありました。その時に、この手紙を読み返し、教師としての誇りと自信を取り戻し、明日から、今向き合っている児童たちにどう指導しようか気持ちを切り替えてきました。</p> <p>今は、担任を離れましたが、学校を歩いていると多くの児童が話しかけてきます。様々な児童が楽しそうに登校してくる様子や授業を受けている様子、児童に熱意を持って接している先生方の姿を見ていると、「学校の教師っていい仕事だな。」と改めて思います。子供たちの未来を想像しながら、時に楽しく、時に厳しく、教師という職に誇りをもち、今日も仕事に励んでいます。</p>

※エピソードをお寄せいただいた皆様の思いを尊重し、個人が特定できる記述、明らかな誤字・脱字等を除き、文章は改変せず掲載しています。

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
小学校	40代	<p>社会人1年目、臨時任用教員として中学校で教鞭をとっていた時の話です。 臨時任用とはいえ、憧れだった教職に就くことができ、やる気に満ち溢れていました。 教科担当として、部活動顧問として様々な面で張り切っていました。しかし、当時の勤務校では、学校に行くことの意義を見出せなかったり、校則を守ることが苦痛だったり、教師への不信感をもっていたりと生徒指導上の課題を抱えており、部活動で受け持った生徒も様々な課題を抱えていました。 そんな生徒たちと、悪戦苦闘しながら部活動指導に当たる毎日でした。大変なことも多く、私自身もくじけそうになることもありましたが、それでも、苦しい練習を乗り越え、試合で結果を残していくうちに、生徒も自信を持てるようになり、信頼関係も深まってきました。</p> <p>そんな彼らの最後の学校総合体育大会。残念ながら地区予選の準決勝で敗れてしまいました。 試合直後、就任当時あんなに反抗的な目をしていたキャプテンの生徒が、涙を流しながら「先生、優勝させられなくてごめん。」と言ってくれた一言を今でも忘れられません。</p> <p>当時の生徒ももう立派な大人になり、今では当時を懐かしみながら昔話ができる関係が続いています。</p> <p>小学校での本採用となりましたが、今でもあの時の一言が、辛い気持ちになった時の自分の背中を押してくれています。</p>
小学校	40代	<p>一年の中で教師としてのやりがいを感じられる学校行事は、卒業式だと感じています。6年生を担当しているときはもちろんのこと、どの立場であったとしても小学校生活の集大成として、子供たちが胸を張って次のステージへ進んでいくのを見送るのは教師冥利に尽きるといっても過言ではありません。</p> <p>とはいえ、6年生担任として初めて卒業生を送り出した日のことは、10年以上たった今でも深く心に残っています。立派な中学生になれるように、小学校でつけるべき力は小学校のうちにと、学年主任の先生に必死について過ごした一年でした。最後の締めくり、卒業式まであとわずかというところで、東日本大震災が起こりました。先が見えずに夢中で仕事をしていいた中で、計画停電による登校時刻や下校時刻の変更、簡易給食、卒業式の内容変更など…思いもよらない事態に私の頭の中はパニック状態でしたが、子供たちは文句も言わずについてきてくれました。もっとしてあげたいことがたくさんあったのに、あの時こうしていればもっとよくなったはずなど、多くの後悔を心にもちながらの卒業式の日を迎えることとなりました。しかし、背筋を伸ばし、堂々と卒業していった子供たちの姿を見て、不安に思っていたことはすべて吹き飛び、充実感に満たされました。自己満足かもしれませんが、教師になってよかった心から思うことができました。「先生ありがとう。」「お陰様で無事に卒業を迎えることができました。」の一言をもらえるだけで、教師というのは力をもらえ、また次に向かって頑張れるのだなと実感しました。</p> <p>その後、様々な立場で卒業式に関わってきましたが、卒業式の日の子供たちの凛々しい姿、保護者の方の温かいまなざしに触れると、この姿を見るために自分は教師をやっているのかもしれないと幾度となく思います。毎日の仕事はうまくいくことばかりではありませんが、日々の小さな積み重ねが感動の卒業式につながっていると信じてこれからも子供たちのために力を尽くしていきたいと思えます。</p>

※エピソードをお寄せいただいた皆様の思いを尊重し、個人が特定できる記述、明らかな誤字・脱字等を除き、文章は改変せず掲載しています。

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
小学校	40代	<p>いつも、暴言やトラブル続き。私の指導は、彼には入っていかない。思うようにいかない指導は、私の重荷のようになっていた。他の教員が指導した方が、彼を変えられるのではないかと。</p> <p>しかし、彼に対して、笑顔で話を聴くことは必ず続ける。私は、それだけは続けなければならないと考えた。なぜなら、彼の家庭環境は、彼にしかわからない思いがあるからだ。</p> <p>ある日、クラスの畑の除草で、たくさんの草がゴミ袋の山となっていた。この重い袋を片付けに行ってくれる子はいないかと困っていると、耳を疑った。すでに重い袋を両手に持ち、行ってくると言うのだ。手伝いがいたほうがよいだろうと言うと</p> <p>「大丈夫、これくらい、楽勝。」</p> <p>彼の背中からは、頼もしく、大きく見えた。</p>

本校の職員からです。

- | | | |
|-----|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校 | 40代 | <ul style="list-style-type: none"> ・何事に対しても、誰に対しても、真心を込めて向き合いたい。それが伝わり、子どもの成長を感じられた時は喜びを感じる。 ・「あいさつを元気よくする。」子供達もコロナ禍で声が小さいのでこちらから声をかけていきたい。 ・「あなたならどうしたい」を大切に ・「みんなでベストを」 ・話す時は必ず提案を。 ・毎日楽しんでます（自分が楽しむ） ・未来を育てるわたしたちということで過去にとらわれないよう意識しています。（まだまだですが…） <p>去年はこうだった、教育はこういうもの、ずっとこうしてきたから…等、行動の根拠として過去を持ち出すことをせず、きちんと理由の言えるものだけを採用していきたいです。これからどんどん「これまでになかった」がふえていくと思います。</p> |
|-----|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
小学校	40代	<p>養護教諭として勤務して20年が経ちます。保健室にはけがや病気、それ以外にも教室へ行けない児童やトラブルがあって保健室でクールダウンして教室へ戻っていく児童など、様々な理由で児童が来室します。どの子も最初はけがや病気の体の痛みや気持ちのコントロールがうまくできない心の痛みで泣き顔や困り顔、怒っている顔など表情が冴えません。ですが、保健室で手当てをしたり、話を聞いたり、時には一緒に楽しく遊んだりして、教室へ戻るときは「ありがとうございました」と笑顔で保健室を後にする子供たちの姿を見ると、自分自身もとても元気な気持ちになります。20年経ちますが、毎日子供から元気をもらえることに日々感謝しています。</p>
小学校	40代	<p>6年担任をしていた時の話です。 何気なく教室へ入ると、黒板に「私たちは授業をボイコットします」とメッセージがあり、児童が一人もいません。怒らせたような心当たりもなく、ただただ焦った私は校内をさがしました。でも、どこにもいないので、校長先生に報告しました。校長先生からは、焦らないでもう一度教室に行くよう指示を受けました。教室に戻りましたが、やはり児童はいませんでした。絶望的な思いで、黒板を眺めていると… 窓の外から「〇〇先生」と呼ぶ声が聞こえました。急いで窓の外を見るとクラスの児童が校庭にいました。そして、「〇〇先生誕生日おめでとう！いつもありがとう」と誕生日のメッセージをくれたのです。涙が出るほど嬉しい瞬間でした。何事かと他のクラスの子供たちも窓から顔を出していましたので、「ありがとう。とにかく教室に戻ってきて！」と応えていました。</p> <p>後で知りましたが、校長先生もご存知だったそうです。子供たちは何日も前から計画し、校長先生や教頭先生にも相談していたとのことでした。いつの間にか、こんな行動力も身につけていたのです。</p> <p>教員の仕事は毎日忙しくなく、本当に大変です。でも、こうした子供たちとの一瞬一瞬があるから楽しいのです。大人を感動させるサプライズをする子供たちが、将来社会に出てどんなサプライズを起こすのか、想像するだけでワクワクします。子供たちがどんな未来を創るのか、その土台となる力を私たち小学校教員は育てているのですね。</p>

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
小学校	40代	<p>数年前に担任した6年生は、卒業の記念として学級会で話し合った結果、タイムカプセルを校庭に埋めることになった。20歳の自分に当てた手紙や、小学校時代に大切にしていた宝物、当時の時間割などを入れた記憶がある。卒業生が20歳になり、現在の勤務校にわざわざ電話をくれた卒業生がいた。コロナ禍で中々集まれる人数が限られているが、ぜひタイムカプセルを掘りたいとの内容であった。</p> <p>タイムカプセルを掘り起こしに、前任校に行くついでに数名が集まっていた。小学校の頃の趣を残しつつも、大きく成長している教え子の姿があった。当時の記憶と、タイムカプセルを埋めた地図を頼りに作業を開始。数時間掘りながら、当時の懐かしい話に花が咲く。結局、タイムカプセルは見つけることはできなかったが、とてもいい時間を過ごすことができた。教え子たちは、大学生になり、それぞれの将来の夢に向かって必死に頑張っていることがわかった。そんな姿を見て、とても頼もしく感じた。「教え子たちは宝物」我々、教職員は未来を創っていることを改めて感じた。</p>
小学校	40代	<p>6年生の学年経営や学級経営に悩む日々の中、よく真剣に授業を聞いてくれて、自主勉強も頑張る女の子がいました。「この学校の先生が大好き！」といつも話していて、先生方のことを本当に信頼している子でした。</p> <p>トラブルに対応する時間が多く、怒ってばかりで反省の日々でしたが、ある時彼女のお母さんから、「先生みたいに小学校の先生になるのが夢なんです」とお話を聞いた時はとても嬉しい気持ちになりました。</p> <p>2年後には、職場体験で小学校に戻ってきて1年生の対応を手伝っていました。明るくて面倒見がよくて、1年生の担任の先生もとても助かると喜んでいました。</p> <p>教え子がそう褒められることはこの上なくうれしいことでした。</p> <p>いつか学校現場で会えることを心待ちにしています。</p>

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
小学校	40代	<p>「先生、一年間親子ともども大変お世話になりました。先生の熱心なご指導のおかげで、この一年で出来ることがたくさん増え、大きく成長し、親としても大変嬉しく思っています。学校に行くまでは、勉強がついていけるか、給食を一人で食べられるか不安に思う日が多かったのですが、今は本人が一人で勉強したり、ご飯を食べたりしている姿を見ていると、びっくりします。先生だったから、ここまで伸ばして下さったと思っています。先生は、我が子をいつも否定せず、まずはしっかりと気持ちを受け止めて、厳しさの中にも優しく接して下さいました。私自身、そんな先生の姿に多くのことを学ばせていただきました。いつも親身になって話を聞いてくれて、一緒に悩んでくれた時間は宝物です。いつも温かく見守って下さった先生のおかげで、本人もこの一年で自信をつけ、イキイキと楽しく学校に通えたのだと思います。子どもが成長する一番大事な時期に先生に出会えたことを心から感謝しています。」</p> <p>保護者からいただいたお手紙です。子どもたちにとって一番大切な時期に関われるこのお仕事にやりがいを感じています。子ども達との出会いに心から感謝し、子ども達と共に成長していきたいです。</p>
小学校	40代	<p>十数年前に小学校を卒業した児童と年賀状のやりとりをしていましたが、ある時を境に連絡が途絶えてしまいました。どうしているかなあと気になっていましたが、数年、時が流れます。そして今年、別の教え子を通して、その子が連絡を私ととりたがっていることを知り、連絡先を交わしました。その子からの連絡は、</p> <p>「今年度、とうとう教員採用試験を通過することができました。これまで、不甲斐ない内容ばかりで恥ずかしくて連絡できませんでしたが、これを機にやっと連絡ができます。そして、これでやっと先生の後輩になれました。今は授業後の生徒の振り返りのコメントを生徒が前向きになるように考えて書いています。当時の先生の楽しさや苦勞をと同じものを味わっているのだなあとと思っています。」</p> <p>との内容でした。</p> <p>当時の私の頑張りを励みに、日々努力していることがとても嬉しくなりました。教員を仕事に選んでよかったです。</p>

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
小学校	40代	<p>ある日の休み時間、3年生の子が、職員室前で緊張した様子で立っていました。何かを言い出せずにいるようです。どうしたのかと尋ねてみますが、なかなか言い出せません。もう一度聞いてみると、今度は、意を決したようにこちらを向き、「教頭先生、何かお手伝いできることはありますか。」と尋ねてきました。「職員室の先生がいつも忙しそうにしているので、何ができることをお手伝いしたいです。」とのこと。聞けば、前から、職員室の先生が忙しそうにしていると思っていたようです。何かお手伝いしたいなと思っていたけど、なかなか言い出す勇気が出なかったとのこと。</p> <p>3年生が、先生方のことまで見る視野をもっていただけに正直驚きました。誰かの役に立とうという気持ちをもっては本当に素敵なことです。そして、その気持ちを行動に移す勇気やその姿には、心が熱くなるような感動を覚えました。</p> <p>それから、その3年生が友達を誘い、昼休みや長い休み時間にお手伝いをしに来てくれるようになりました。子供たちも学校のために何かができることにやりがいを感じているようです。テキパキお手伝いしてくれ、本当に助かっています。その子供たちは、高学年になった今でも、委員会活動やクラスの活動の合間を見て、数人で入れ替わりお手伝いに来てくれます。そして、そういう姿を見た下の学年の子たちも自主的に職員室にお手伝いに来てくれるようになりました。</p> <p>子供たちのなかに、大変そうにしている人を助けようとする気持ちが広がってきているようです。きっと家庭や地域の方が子供たちに伝えてくれていることなのだと思います。「チーム学校」というのは、職員だけではなく子供たちも含めて、そして保護者や地域の方も含めて、みんなで「チーム学校」なんだと実感し、一層この仕事にやりがいを感じています。</p>
小学校	40代	<p>授業を一生懸命受けていた中学1年の生徒。特に数学の授業では自主的に頑張っている姿も見られた。わからない問題にヒントを出し、解法を閃いたときの生徒の笑顔が数学を楽しんでいることを物語っていた。</p> <p>しかし、あるとき友達とのトラブルで学校に来られなくなり、家に閉じこもってしまった。悩む日々を過ごしたと思う。</p> <p>中学2年になったとき、数学教師は担任になった。数学のときの会話を雑談に変え、教師との信頼関係を学校生活の安心感に変えていった。徐々に学校に足が向き、行事をきっかけに、教室にリカバリーした。その後の学校生活でも笑顔を取り戻し、笑顔のまま卒業していった。</p>
小学校	50代	<p>教員になって異動2校目のことです。初任校で教えた児童から葉書が届きました。高校受験を控えた彼女からの葉書には、今、受験勉強を頑張っていることと、時々、先生が、いつも帰り際に「気を付けて帰ってね。」と声をかけてくれたことが思い出されます。と書かれていました。担任として当たり前のように「気を付けて帰ってね。」と声をかけていたのですが、時がたっても、その当時のことを思い出してくれていたことに感激しました。</p>

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
小学校	50代	<p>本校では、「あいさつ+1（プラスワン）」という取り組みをしています。</p> <p>児童とすれ違うときに、「おはようございます。今日の朝、白い月が見えました。」「こんにちは。今日の給食はカレーです。ということは、うちでは3食続けてカレーです。」「さようなら。良いお年を。」という声をかけられて、毎日がとても輝いています。</p>
小学校	50代	<p>私の勤めている皆野町は、毎年8月に秩父音頭まつりが行われています。（今はコロナの為行われていませんが…）このお祭りでは、踊りコンクールが行われるため、町の教職員チームを作り、他の団体に混じって参加しています。</p> <p>私は毎年踊りに参加しているのですが、踊っていると教え子達が声をかけてくれます。中には、私が着替えて会場から出てくるのを待っていてくれる子や、先生に会いに来たよと言ってくれる子もいます。</p> <p>私ももういい歳だし、もう参加するのはやめようと思っていました。でも、教え子から、「先生、来年も会いたいね。」とか、「大学卒業したら皆野に帰ってくるからね。」などと言われると、来年も会いたいと思います。そして、踊ってる姿を教え子に見せることで、地元を大切にすることの素晴らしさも伝えられたらと思うようになりました。</p> <p>何より、教え子の成長した姿を見るのが楽しみなのです。残念ながら、この2年は中止になってしまったので教え子達に会えていないのですが、来年こそは秩父音頭まつりが開催され、踊りコンクールに参加し、教え子達に会いたいと思っています。</p> <p>今までに送り出した何人もの子供達は、私にとって大事な教え子で、大事な宝物です。</p>
小学校	50代	<p>普段なかなか学習に意欲が持てないS君。</p> <p>跳び箱運動の授業で、「先生、見てて！」と抱え込み跳びの縦5段を見事に跳んで、満面の笑み。</p> <p>私も思わず、「やったね、すごいすごい！」と、拍手した。</p> <p>子供のキラキラした笑顔が、毎日のパワーとエネルギー源です。</p>

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
小学校	50代	<p>もう30年ほど前の話です。初任では5年生を担当しましたが、大学出たてで理想に燃えており、「なんで5年生なのにこれくらいのことできないんだ！」と勉強でもクラス内の生活や人間関係でも感じて、自分の価値観に合わないことには怒りまくっていました。ですから、毎日子供たちと喧嘩のような状態で、もちろんそんなことでは学級経営がうまくいっていませんでした。</p> <p>2年目を前に校長から「1年生を担当せよ。やりたいようにやっついて、責任は俺が取るから。」と言われました。大卒2年目の男が1年生を担当することは異例だと思い戸惑いましたが、その時に初任の時のやり方をしていたら1年生は学校に来なくなると思い、1年生だからできなくて当たり前という考え方で臨みました。</p> <p>そうすると、彼らが失敗しても「しょうがないよ、1年生だもんね。」で対応できるので、怒る必要はありません。でも、1年生は1年生だからしょうがないと言われると火がつらしく、「できるもん。次はちゃんとできるもん。」となるんですね。</p> <p>この経験がなければ、自分はこの仕事をとっくに辞めていたと思います。その後ほかの学年を担当しても、1年生を担当したことを基準にすれば、どの学年の子供たちも大人に思えるようになり、「すごいね！」という言葉が自然に言えるようになりました。</p> <p>振り返ると、その時の校長はこのままだとこいつはダメだと思って1年生担任を命じてくださったんですね。</p>
小学校	50代	<p>「うわぁ、やだ」「気持ち悪い」</p> <p>蚕約1000頭を学級で世話することになったときのこと。学校応援団の熱心な指導（と教師の期待）をよそに、桑の葉に見え隠れする蚕を見ることさえできない児童がいた。</p> <p>蚕の世話は、新しい桑の葉の交換、糞の片付け、病気の蚕の確認等であり、慣れぬ作業に誰もが苦戦していた。それでも世話を続け、蚕もすっかり大きくなった頃には、蚕のことを「可愛い」と感じる子は確実に増えた。</p> <p>蚕のこことを見ることさえできなかった子はといえば・・・「ぷにゅぷにゅして可愛い」「すべすべ」と、育てた蚕を掌に乗せて無邪気に喜んでいる。仲間との協働作業が、意識を変えてくれたのだろう。学校とは人を成長させてくれるところだ。そう実感できた。その場に居合わせられたことは、もちろん私の宝となった。</p>

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
小学校	50代	<p>新任時に4年生担任だった。1学期に跳び箱運動があった。どうしても跳べない子が3人いた。絶対に今年度中に跳ばせようと思った私は、3月にその子達と昼休みと放課後に練習した。しかし、何度挑戦しても跳べない。それでも、終業式の日までその子達と練習を続けた。神様はその子達の努力をやはり見ていた。4年生最後のこの日、3人とも跳べるようになったのだ。子供達の無限の可能性を信じることを私は彼らから教えてもらった。</p>
小学校	50代	<p>私は本校に勤務したのち、他校にて勤務をし、また本校勤務に戻ってきた。</p> <p>前回勤務した時に担任した児童や、児童会担当だった私のところで児童会活動をしていた児童の中から4人が、来年度より、埼玉県の教職員として採用されることとなった。今までにも、教え子が教員になったということはあったが、一度に4人というのは初めてであり、驚いている。</p> <p>彼らは、教育実習生や、学校現場体験事業員として、教壇に立ち、今の本校の児童に教えていた。彼らの姿を見て、その成長をうれしく思った。それとともに、自分の仕事が、若い人たちに引き継がれていっていることを感じ、そのこともうれしかった。教員を続けていることが、幸せなことであると感じられた。</p> <p>それとともに、改めて、教員という職業の重要性を感じた。私は、昔も今も職務に一生懸命に取り組んでいるが、もし、いい加減に取り組んでいたら、4人の教え子が同時に採用されるということはなかったかもしれない。そう思うと、自分の仕事の重みを感じる。もし、彼らの中に、私が少しでもよい影響を与えていたとしたら、本当にうれしく思う。</p> <p>私はこれからも教員を続けていく。彼らの教員生活もいよいよスタートを迎える。彼らのこれからの活躍を、元担任・担当として、同僚として、温かく見守っていきたい。</p>
小学校	50代	<p>音楽会出場、緊張感でいつもと違う表情の子どもたち、ステージのスポットライトを浴びて、教えてきた通り、練習してきたことを本番で一生懸命表現してくれる子どもたち、集中して最高の表現をしようとする姿は、笑顔がキラキラしていて、感動と教師をしてきて最高の喜びを感じさせてくれる瞬間でした。</p>
小学校	50代	<p>かけ算九九がなかなか覚えられなかった子が、スラスラ言えるようになった時に一緒に喜びを味わうことができました。子どもたちの成長を身近で見られるこの仕事にやりがいを感じます。</p>

※エピソードをお寄せいただいた皆様の思いを尊重し、個人が特定できる記述、明らかな誤字・脱字等を除き、文章は改変せず掲載しています。

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
小学校	50代	<p>以前勤務した学校で登校指導を担当しておりました。あいさつはあまりできず、1列に並んでの登校も徹底できておりませんでした。学校で登校してくる児童にあいさつや一列に並んでの登校を指導しましたが、いつになってもあまり変わりませんでした。</p> <p>ある日、登校指導を学校で待つのではなく、各方面に巡回して行うようにしました。通学班の集合場所で一緒に待ち、その間に児童とできるだけコミュニケーションをとるようにしました。地域の見守りボランティアの方々ともコミュニケーションをとり、児童の登校の様子を情報共有しました。</p> <p>さまざまな情報が入ってくるようになりました。良いことも悪いこともありましたが、子供たちや地域ボランティアの方々やと直接やりとりしながら、課題があがった場合は、すぐに解決していくようにしました。そして、良いところをたくさん誉めるようにしました。「大きな声であいさつありがとう！」「とても綺麗に並べています、さすがです！」「笑顔であいさつうれしいです！ありがとう！」</p> <p>徐々に、児童は自分たちから進んであいさつをするようになり、地域のあちこちから、登校時間帯にあいさつする声が合唱となってきこえるようになりました。</p> <p>わたしが、この学校を去る日、体育館でお別れのあいさつをした時のことでした。「みなさん、さようなら！」と最後にあいさつをしたときです。体育館が壊れんばかりに、大きな声が体育館中に響き渡りました。そして、その後に場内を去ろうとする私の背中越しに、多くの児童がすすり泣く声が聞こえてきました。</p> <p>毎日、毎日1日も欠かさずに、児童と向き合い、登校する児童に笑顔であいさつをし続けたことが、児童と深い信頼関係を築くことができたのだとその時実感しました。思わず私自身まぶたが熱くなり、涙が溢れるようにこぼれ落ちてきました。</p> <p>将来、この児童が「あいさつ」を大切に生きた生き方を実践してくれることで、少しでも児童の未来に役立ててもらえたらと今は思っております。</p>
小学校	50代	<p>担任をしていた頃、毎年、年度当初の目標は「来年も持ち上がりたくなるような（当時は学級の持ち上がりがありました）学級づくりをすること」でした。高学年の担任が多かった私は、子供一人一人をよく知り、心が通じ合うようになるには2年かかると勝手に思い込んでいたからです。無我夢中の学級経営でした。卒業後、子供たちが学校や家に会いに来てくれたり、就職や結婚の報告をしてくれたり、生まれた子供の顔を見せに来てくれたりすることが一番の幸せです。教師の仕事はいいなあと思える瞬間です。</p>
小学校	50代	<p>息子の応援でテニスの市民大会に行った時のことです。大会役員の若い男性から「先生、ぼくのこと覚えてますか？」と声をかけられました。見ると、昔担任をした男の子でした。その頃は物静かで、どちらかというと引っ込み思案な子でしたが、とても立派になって見違えるようでした。彼は、私が担任した時のことをよく覚えてくれていて、私のような教員になりたいと大学の教育学部に進学したことを教えてくれました。その後、彼は採用試験に合格し、小学校の教員として頑張っています。私も担任の先生に憧れて教員となったので、自分が教え子に影響を与えられたことをとてもうれしく思います。</p>

※エピソードをお寄せいただいた皆様の思いを尊重し、個人が特定できる記述、明らかな誤字・脱字等を除き、文章は改変せず掲載しています。

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
小学校	50代	手先が器用でなく、体幹も弱く風邪もひきやすかった特別支援学級在籍の児童のことです。何事もスモールステップで取り組み、「やればできる、やらなければならない。」を合言葉に頑張っていました。新体力テストでは、自己記録を更新させていましたが、上体起こしだけは毎年記録0回だったので、毎日、児童の腕を引き上げるようにして支援し、起き上がらせていくうちに、とうとう子供たちの応援のおかげもあり、1回起き上がることができました。しかもその日のうちに3回も1人でできました。本人の努力、周りの応援の力の大きさを感じました。努力と応援でさらに力を伸ばせるよう、子供たちの支援をしています。
小学校	50代	教員の仕事を始めた時に6年生の児童に先生の小学校の時の夢は何だったのと聞かれた時に小学校の卒業アルバムに小学校の先生だったよと話しました。先生、夢が叶ったんだね。すごいね。と言われて児童に夢は叶うんだねと言われてがんばろうと言われた時教師になれてよかったなと改めて思いました。
小学校	50代	学校へ成人している教え子から電話があった。もう20年近く会っていないが、電話の向こうは、担任した時と同じ声があった。社会へ出て色々な困難があったのだろう。中学校の途中で他県へ転校した後も季節の便りは時々来ていたが、役職を得た苦しさや遣り甲斐を話し、先生の声が聞きたかったと言われた。聞くだけだったが、十分頑張っていることがわかり胸が熱くなった。後日、同じクラスだった教え子からも連絡があり、家族と一緒に顔を見せに来てくれた。
小学校	50代	中学の同窓会で、久しぶりに卒業生に会いました。皆さん立派になって見違えるようでした。多くのテーブルを回っていると、先生の理科の授業は、楽しかったといってもらえました。先生のおかげで、理科系の企業に就職し、仕事を頑張っています。色々な会話を交わすことができました。まさかこんなに楽しい会話になるとは思っていなかったのととても良い思い出になりました。その時の卒業生には、とても良い授業態度で感謝しています。
小学校	50代	給食の時間におかずのメンチカツを落としてしまった児童が、職員室に「カツを落としてしまいました。」と落ち込んだ顔で来ました。残っていたメンチカツ渡すと、途端に嬉しそうな顔になり大きな声で「ありがとございました」と言って嬉しそに教室に戻って行きました。何気ないことですが、その時の児童の笑顔を思い出すと、心が温まります。

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
小学校	50代	<p>低学年を担当したときのことで。毎週末には、日記の宿題を出していました。時間がある時には学校でも取り組みましたが、ほとんどは宿題でした。月曜日に、週末にどんなことを児童がしていたのかを読むのが楽しみでした。その時に担任していた児童が少なかったということもありますが、児童の日記に必ず5行以上のコメントを書こうと心がけていました。こちらがたくさんコメントを入れると、子供たちもたくさん書いてくれるようになり、また、上手な日記を他の児童に読んで聞かせたこともありました。学年末に香川県の方へ引っ越しをする児童がいて、転校の書類を取りに来た母親に、「先生のおかげで、うちの子は作文を書くのが好きになったようです。私も、先生のコメントを読むのが楽しみでした。」と声をかけられたことが、今も私の心の中に残っています。</p>
小学校	50代	<p>令和3年3月24日水曜日、この日は令和2年度の卒業証書授与式の日でした。来賓もいない、慣れ親しんだ校歌も歌えない卒業証書授与式。コロナウイルス感染症対策で仕方のないこととはいえ、式は驚くほどスムーズに進行・終了し、児童が退場という瞬間、全職員が各所から楽器を取り出し、歓送の曲目を演奏し始めたのです。保護者はもちろんのこと、児童にもまったく知らされていなかったため、その会場全体で、児童同士・保護者同士が顔を見合わせ、驚きの表情を浮かべていました。そして、その驚きの表情が涙に変わり、万雷の拍手と歓送の曲の中を卒業生が退場していきました。数日前に教職員から、演奏の申し出があった時、了承はしたものの、短期間で準備ができるのか不安でした。しかし、結果は大成功。先生方のおかげで児童も喜んで卒業できるなど感じました。校庭に児童の送り出しに出ると、多くの児童・保護者から、先生方の思いが伝わりました等、多くのお礼を言われ嬉しくなりました。頭に浮かんだのは、宮沢章二先生の「行為の意味」です。「・・・同じように胸の中の思いは見えないけれど 思いやりは見えるのだ それは 人に対する積極的な行為なのだから あたたかい心が あたたかい行為になり やさしい思いが やさしい行為になるとき「心」も「思い」も、初めて美しく生きる それは 人が人として生きることだ」・・・小学校生活最後の日までおもいやりを感じさせてくれる先生・それをしっかりと受け取った児童・保護者。この両者の姿を見られ、1年で最良の日になりました。</p>
小学校	60代以上	<p>教員として学級経営に自信をもってやってきました。私なら崩壊した学級も立て直すことができると考えていました。そんな気持ちで引き受けた中2の担任でした。ところが、私の言動に子どもたちは大反発してきました。疲れ切った私は「指導する」という気持ちを捨て、ただ「素敵な中学生になって！」と祈ることにしました。やがて、その学級が誰もがびっくりするような理想的な集団になるなんて、夢にも思いませんでしたが・・・</p>

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
小学校	60代以上	ある年の持久走大会の日、昨年担任した2年生のJ君が泣きじゃくっているそばで、お母さんが困り果てています。J君は昨年1位、今年も1位にならなければというプレッシャーで出場を拒んでいたのです。私は、「あなたなら大丈夫、がんばってらっしゃい。」と、声をかけました。泣きながらスタートしたJ君、見事優勝しました。後日、お母さんから「先生の一言で走れました。」と言われ、うれしくてとても照れくさかったあの時の気持ち、今でも覚えています。
小学校	60代以上	5年生を担当していた時、道徳で「誠実」をテーマにした授業を行った。校内研修でも道徳に取り組んでおり、ちょっと頑張った授業だった。教師の説話の終わりに、子どもたちに「誠実」とだけ書いたシンプルなしおりを配った。翌年6年生担任の先生が、「T君が、あの時のしおりを使っているよ。」と教えてくれた。特に目立つでもない野球少年だったが、何か心に残るものがあった、使ってくれているのなら嬉しいと思った。
小学校	60代以上	丁度今から20年ほど前、2年生を担当していた時のことです。3クラス平行で、かなり元気のいい学年でした。どのクラスも落ち着きがなく、担任たちは、頭を抱えて3学期を迎えていました、そのうち、1クラスの学級崩壊が起きてしまいました。子供たちを落ち着かせるために、校長から、学年で解決するようにと言われ、ミュージカルを取り入れ学年で取り組んだところ、不思議なくらい穏やかな学年になっていました。音楽の力を再発見しました。

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
小学校	60代以上	<p>私は、教職員人生を今年度で終わろうとしている。たくさんの子供たちを担当し、そして関わってきた。その中で、先生になってよかったなあと感じていることは、年賀状のやり取りである。毎年、元日になると郵便受けをみるのが楽しみである。</p> <p>教え子たちは、毎年成長を続け、小学校卒業後の人生を歩んでいる。その様子が、ほんの短い文面であるが、年賀状の中に書き込まれている。一瞬にして頭の中は、その子を担任していたころの映像が浮かんでくる。実に嬉しく懐かしい瞬間である。既に、子育てに励んでいる教え子は、当時先生が話していたことが分かるようになりましたなど、私が覚えていないような言葉も覚えていてくれることもある。そのような時は、先生として子供たちと関わってきたことが実によかったなあ実感する。</p> <p>先生は子供の人生に関わっていくことが出来る素晴らしい職業であると考えます。ある教え子から連絡があり、「先生はもしかしたら今年退職ですか。もし退職でしたらどこかで集まって話をしたいです。」ということであった。今はまだコロナ禍の状況で、すぐには集まれないかもしれないが、収束したら私の方から連絡をして教え子たちと話をしたいと考えている。子供と先生の関係は一生続くものだと感じている。</p> <p>退職をする今になって、つくづく先生の道を選んでよかったと思っている。</p>
小学校	60代以上	<p>元気でやんちゃといえは3年生、男子多めの28人のクラスを受け持った時の思い出です。2学期の総合的な学習の時間は、郷土の「つみっこ汁」に入れる野菜を栽培することでした。収穫後は地域の方々に協力してもらい、つみっこ汁に調理して会食する予定でした。栽培する野菜は、白菜、小松菜、大根、人参です。野菜作りは全く経験がなく、自分にできるのだろうかと不安でしたが、職場の同僚に何度も教えてもらったり、分かりやすい動画を探したりし参考にしました。子供たちは種まきや草取りをし、間引きや水くれ当番を決めてきちんとすることができました。自分の蒔いた野菜が元気に大きく育つ様子を観察することが、とても好きになったようでした。どの野菜も上手に育ち、収穫した野菜と一緒に写真を撮った時のうれしそうな顔が忘れられませんが、純粋な笑顔、一緒にやり切った達成感、これが味わえるのは教師ならではですね。</p>

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
小学校	60代以上	<p>「遠回りも楽しい」そんな文を書いたのが28年前。一般の企業に勤めたり、臨時的任用を経たりして、他の方より遅い初任者となった年でした。自分が教員になりたい、本採用者になって授業を頑張りたい、学級も任せてもらいたいと強く願うようになったのは、臨時的任用で勤務した中学校の音楽の先生と出会ったからでした。合唱の指導も熱血で自ら手本を示し、生徒のため保護者のためと毎日学年だよりを書く先輩の姿を見て、自分もあんなふうになりたいと思ったものでした。そして採用試験の合格。他の人より10年遅くの初任者だから、これからの10年を5年とって走っていかうと心に決めて、子供たちと充実した日々を送ることができました。先輩の先生方にたくさん教えていただき、授業も学級も学校での校務も少しずつできるようになりました。</p> <p>それから15年後、教頭として勤務していた学校にやってきたセミナー生がいました。彼女は私が教諭時代に受け持った学年に児童として在籍していた子供でした。隣の学級だったこともあり、私自身は覚えていなかったのですが、彼女は私を覚えていました。「先生の学級は掲示物が素敵でいいなと思っていました。それに長縄や鉄棒と一緒にやってくれて隣のクラスだけよく覚えています。」と話すではありませんか。そしてセミナーが終わるときに「私、先生のような教員を目指します。セミナーの期間に教わったことを心にとめて、4月から頑張ります。そして教員としていつか教頭先生と一緒に働きたいです。」そう笑顔で話してくれた彼女は、初任者として採用された後も、はつらつと子供たちと関わる素敵な先生になったと教えてくれる人もいました。</p> <p>私自身、素晴らしい先輩の姿を見て、あんなふうになりたいと思い、自分の姿を見て頑張ってみようという若い人が育っていく。人は見えない鎖のようにつながっているのだなと感じたものでした。過去に出会った子供が育ってまた次の世代を育てていく。なんと素敵な営みではありませんか。私自身育てられ、そして子供たちを育てることのできる教育の仕事は素晴らしいです。遠回りしたけれど教員になってよかった、だからこれからも教育の仕事に就きたいと願う若者を応援して、鎖をつないでいかうと考えています。</p>
小学校	60代以上	<p>教室で、カブトムシの幼虫を飼い、サナギの様子をみんなで観察したり、ザリガニに卵を産ませ、その様子を観察したり、カマキリのを飼い、産卵の様子をみたり、子供たちと一緒に色々な生き物を飼っていたら保護者から、「学校でカブトムシの幼虫やザリガニなど色々な生き物を飼っていたので、家でも子供と一緒に飼い始めました。面白いですね。」と声をかけられ、飼い方など相談される事がありました。</p> <p>縄跳びの前跳びぐらいしか跳べなかった児童が、休み時間にも一生懸命練習し、あや跳びや交差跳び二重跳びがたくさんできるようになり、「先生、跳べるようになったよ。」と目を輝かせ嬉しそうに見せてくれ嬉しかったです。</p>

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
小学校	60代以上	昨年、定年を迎えました。大学を卒業した次の年に臨採で勤めた学校で3年生を担当させていただきました。初めての担任です。毎日がわからないことばかりで、子どもたちも不安に感じていたと思いますが、唯一、休み時間はいつも一緒に遊んでいました。放課後の補充学習をしたりしました。初めての担任とういことでお互いに想いも深かったと思います。それから、ずいぶんと時間が経ちましたが、一人だけ今だに年賀状のやりとりをしています。家族写真を添えた年賀状をみるたびに心が温かくなります。
中学校	20代以下	最近、子どもが生まれました。 生まれた前日が自分の誕生日だったのですが、子どもたちがわざわざ花束を準備してお祝いしてくれました。 最初は他の先生に購入等を頼んだのかと思いましたが、子ども達がわざわざ休日に買いに行ったことを聞いたときは本当に嬉しかったです。教師をやっているからこそ、経験できたエピソードでした。
中学校	20代以下	初任で配属となった中学校で5年目になりました。 所属学年は3年生ではじめて1年から持ち上がらせてもらっています。 とても落ち着いた学年で今ほどの生徒も進路に向けて日々の生活を頑張っています。 12月に教育相談があり、ある生徒に将来の夢を尋ねると、先生みたいな教師になりたいと言われました。 大学を出てから無我夢中で5年間勤務しましたが、生徒に夢を与えられたと思うととても嬉しくなりました。 これからも生徒とともに成長し続けられる教員を目指していきます。

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
中学校	20代以下	<p>私は国語の教員ですが、昔から古典が苦手でした。大学時代も漢文が特に苦手だったので何度も諦めそうになりました。しかし、苦手でもなんとかわかりやすく訓点をつける方法を見つけることができ、単位も落とさないうれしかったです。</p> <p>その経験があり、この実践方法を授業に取り入れてみると生徒にもわかりやすいと評判になり、「漢文が大好き」と言ってくれる生徒もできました。</p> <p>自分が苦手だからこそ、わかりやすく指導できることもあるのだと思います。</p> <p>これからも苦手なことでも挑戦し、その経験を指導に活かせる教員になりたいと思います。</p>
中学校	20代以下	<p>私が体調が優れないときに普段、クラスの中であまり話をしない生徒が、私に対して、「先生、具合悪いの？」と聞いてくれました。そのとき、生徒たちは私のことを見てくれているんだな。この子たちのために一人の大人として見られてもいいやうに振る舞おうと決心しました。</p>
中学校	20代以下	<p>臨時的任用教員として赴任した先の3年生。『自分たち、この学年の先生に嫌われてるんですよ。』多くの生徒が口々に呟いていました。</p> <p>私は、1秒でも長く生徒と時間を過ごしました。授業、休み時間、放課後、3年生いろんな場面で話し続けました。そんな生徒たちとの最後の学年集会。伝えたかった言葉を伝えました。</p> <p>『あなたたちは先生方に愛されている。』</p> <p>3年から入った先生が多い学年でしたが、1年間先生方は愛情を注ぎ続けていました。だからこそ伝えたかった言葉。</p> <p>卒業式前日、生徒からもらった手紙にはこんな言葉が。</p> <p>『先生はなんでこんな私たちを信じてくれるのか、わかりませんでした。先生と出会えてよかったです。』</p> <p>生徒からもらった1番の通知表でした。</p> <p>そんな思いをまたいつか生徒にさせたいと思い続けて、今も教壇に立ち続けています。</p>

※エピソードをお寄せいただいた皆様の思いを尊重し、個人が特定できる記述、明らかな誤字・脱字等を除き、文章は改変せず掲載しています。

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
中学校	20代以下	<p>学校が大嫌いで、学校に行く目的さえ見つけられていなかった生徒がいました。授業も寝てばかりで先生の話は入っていませんでした。社会科の夏休みの宿題で、自分の好きなテーマを見つけてマップを作るというものを出しました。その生徒はもちろんやっていなかったので提出できませんでした。私はなんとかやり切ってもらおうと、朝の時間や放課後に生徒につきっきりで宿題を手伝いました。その子の、好きなスポーツに関する資料を提示してみると、少しずつ興味を持ってくれたのです。日に日に私が手伝わなくても自分一人で行えるようになっていきました。ようやく完成して提出できた時、その生徒の顔には照れながらも、満面の笑みがありました。</p> <p>それからその生徒は、私の授業がある日を楽しみにしてくれ、社会の授業が楽しいと言ってくれました。もっと楽しくしたいと、自ら質問をしてくれるようになったのです。社会以外の授業でも、ちょっとずつではありますがその生徒の姿が変わってきていました。そんな生徒が年度末に言ってくれた言葉があります。「先生の授業をちゃんと聞いていなくて後悔しています、きっかけをくれてありがとう」こんな言葉をもらいました。その時私は、生徒のきっかけを作れたこと、そして、生徒が大きく変わり成長した瞬間に立ち会えたことに喜びを感じました。</p>
中学校	20代以下	<p>給食準備の際、当番の仕事より友達と話すことを楽しんでしまっていたクラスの子どもたち。私が呼びかけをしても、いつも給食準備が学年で一番遅かった。そこで学級会を開き、給食の準備についてのクラスルールを決めた。そのルールが決めてから、子どもたちが自ら呼びかけをするようになり、今ではほとんど毎日ルールが達成できている。教員が呼びかけるよりも、日々一緒に生活している仲間同士の声かけの効果は大きい。今、周りを見ながら行動することを意識し、コミュニケーションを大切に日々成長しています。</p>
中学校	20代以下	<p>担任をしていて、色々な場面で、クラスの多くの子から愛を感じています。私が教卓近くで作業をしていると、「先生、手伝います。」とクラスの子が声をかけてくれます。私が体調不良で休んだときには、次の日の生徒の日記に「先生、大丈夫ですか？」や「先生がいなくてもしっかり生活できました。」などと書いてありました。クラス全体が愛ある言動にあふれ、日々、あたたかいクラスで生活ができています。クラスの36人のみんな、いつもありがとう。</p>

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
中学校	20代以下	<p>自分もあまり得意ではないまつりぬい。標本を作るのにすごく時間がかかりました。</p> <p>次の日の授業、上手に教えられるか、全員が縫い方を覚えてくれるかすごく不安でした。でも、全員が縫い方を覚えられ、各班に見本があるのと無いのでは全然違うと言ってくれた時、一生懸命やってよかったなと心から思いました。</p>
中学校	20代以下	<p>相談室登校をしている生徒がいました。何度か会い、話しているうちに勉強に対しても意欲があるようなので自分の専門教科である数学を勉強させてみました。すると呑み込みが早く次々と出した課題を終わらせていき、学校の定期テストを数学だけでも受けてみる話まで進めることができました。本人が学校で勉強するという登校に意欲的になるきっかけの1つになったのかなと思います。</p>
中学校	20代以下	<p>卒業生から改めて感謝の言葉を述べられたこと</p>
中学校	20代以下	<p>最初はなかなか社会の点数が上がらなかった1人の生徒が、授業が終わるたびに質問に来て、テスト前に何度も私のところに話を聞きに来ました。その努力の結果、点数が大幅に上がり、その子が「先生のおかげだよ」と言ってくれたことが、今でも心に残っています。</p>
中学校	20代以下	<p>授業中、生徒に発問する際、こちらが想定する内容のはるか上をいく回答が返ってくることが多い。常識の枠にとらわれない子供たちは天才だと日々感じます。</p>

※エピソードをお寄せいただいた皆様の思いを尊重し、個人が特定できる記述、明らかな誤字・脱字等を除き、文章は改変せず掲載しています。

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
中学校	20代以下	<p>特別支援学級の生徒が急遽転校することになりました。急な事なので、お別れ会を実施する時間も考える時間も無く、手紙を書くだけしかできませんでした。お別れする日、帰りのホームルームにて写真を撮る前に学級委員が転校する生徒に向けてメッセージを黒板いっぱい書いて送り出そうと提案してくれました。クラスはそれに快諾し、協力して教室を整え、元気な挨拶と笑顔で送り出しました。中には、涙を流す子もいて暖かい心を感じることが出来ました。それが人として大切な事であり、これからもその心を育てていきたいと思うようになりました。</p>
中学校	20代以下	<p>コロナ禍の影響で、従来なかった仕事が非常に増えました。ICT機器の活用を迫られ、これまでの授業準備に加え、機器の準備などの負担が増えました。保護者からの無理な要望に対応することも増えました。行事の準備に追われ、授業準備に時間を割くことが難しいです。授業の外部指導者ということで、地域の方と日が暮れてから何度も何度も打ち合わせをしました。体育祭が行われた翌日の土曜日に、地域の活動として花を植えに行きました。子どもたちのためにと、どんなに頑張っても自主的に教員がやっていることで勤務時間として認めないと司法が言います。</p> <p>このような仕事ですが、子どもたちの笑顔を見ることができます。お給料には一切、反映されませんがやりがいを感じます。そんな素敵なお仕事です。</p>

※エピソードをお寄せいただいた皆様の思いを尊重し、個人が特定できる記述、明らかな誤字・脱字等を除き、文章は改変せず掲載しています。

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
中学校	30代	<p>「先生がいなかったら、今の自分はいなかったよ」 居酒屋の席で、立派に成長した元生徒がそう言った。</p> <p>彼は、中学時代は落ち着きがなく、友人とよくトラブルを起こしていた。 彼が学校を抜け出した時には、家まで追いかけたこともあった。 正直に言うと、「大変な子」であった。</p> <p>それでも、彼は誰よりも明るい笑顔を私に向けてくれた。 納得がいけない心の内を、包み隠さずに伝えてくれた。 大好きな家族の話を、涙を浮かべながら語ってくれた。</p> <p>そんな彼と一緒に過ごせた時間は、私にとってかけがえのないものであった。 彼は「先生のおかげ」と言うが、私は「あなたのおかげ」だと思っている。 教師として生きていくことの大変さ、楽しさ、やりがいをまとめて感じさせてくれたから。</p> <p>彼と出会ってから10年がたつが、今でも親交は続いている。 共に酒を酌み交わしながら、当時のことを語り合っている。 いつの間にか、彼が「また飲みましょうよ」と言ってくれることを心待ちにしている自分がある。</p> <p>そろそろ、自分から「また飲みにいこうぜ」と声をかけてみようか。</p>

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
中学校	30代	<p>担任ではなく授業を担当していただけた野球少年。 当時の私とはとにかく必死に授業をしていた。 生徒との関わり方も先輩の先生方にいろいろと教えていただいていた。 2年間担当し、その後は別々の場所で過ごしていた。 ある雪の日、母とともにその野球少年が私に会いに来てくれた。 「〇〇大学に進学します。」 会いに来てくれると思ってもらえなかったのが、とてもうれしかった。 些細なことかもしれないけれど、私をはじめて経験したうれしい出来事だった。</p>
中学校	30代	<p>特別支援学級を担当した際に、自閉症の生徒がはじめて歌を歌えた瞬間に出会いました。 あの時の感動は忘れません</p>
中学校	30代	<p>何事にも真面目に取り組む生徒。学習に部活動に熱心でした。3年生の1学期、志願している高校にはなかなか厳しいものがありました。夏の面談で「どうしてもその高校に行きたい」という意思が強かったので、「100ページのノートで夏休みに完成してみれば？」と勉強方法を伝えた。そして夏休み明けの日100ページぎっしりと学習したノートが完成したのです。その後もコツコツと学習に励み、自分の希望している高校に合格し、卒業して行きました。</p>
中学校	30代	<p>保健室登校の男子生徒と初めて会ったときは、口も聞いてもらえず、目も合わせてもらえませんでした。 学習支援をしても、無視され続ける毎日でしたが必ず一回は顔を見に行き声をかけることを続けて行いました。 ある日、生徒から「先生、数学で出来ないところがある」と初めて相談を受けました。そこから、心の距離は縮まり無事に卒業をし高校に通うことが出来ました。根気強い生徒とのコミュニケーションが生徒の未来に繋がると理解した瞬間でした。</p>

※エピソードをお寄せいただいた皆様の思いを尊重し、個人が特定できる記述、明らかな誤字・脱字等を除き、文章は改変せず掲載しています。

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
中学校	30代	私が初任校で始めて担任したサッカー部の生徒の話です。その生徒を3年間担任することができました。真面目に授業や部活動に取り組む生徒で3年生になり、受験はさいたま市の学校を希望しました。当時の倍率は2倍近くあり、担任としては難しい決断でした。しかし、頑なに曲げず見事にさいたま市の学校に合格することができました。高校でもインターハイを目指し、一生懸命に取り組み、埼玉県のベスト4に入ることができました。私にとっても最高の3年間を共に過ごすことができました。今年、成人式で会うことができるのでとても成長した姿を見ることが楽しみです。
中学校	30代	特別支援学級で三年間担任した生徒が、特別支援学校の高等部に進学し、生徒会本部役員として活躍した。高等部に卒業後、お菓子工場に就職。自動車免許を取得し、車で手作りのお菓子を私の自宅に届けてくれた。子供の成長に感動した。
中学校	30代	当時は問題行動ばかりであった生徒が、数年後立派な姿で挨拶をしにきてくれました。 真剣に向き合った生徒から、感謝をされ感動しました。 いつになっても、生徒第一で働ける人間でいたいと思いました。
中学校	30代	教師になりたての頃、自分の経験不足や力不足からクラスやサッカー部の生徒に苦勞をかけながら手探りで指導に当たっていました。その生徒たちが成人になったとき、当時の先生との出会いがあって良かったと言ってくれ、自分もまた頑張る原動力になっています。

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
中学校	30代	<p>自分が受け持つ学年の生徒。部活動では技術は二の次で挨拶、返事など、礼儀の指導を徹底した。社会に出たときに必要なことを伝えなかったからだ。</p> <p>最初はなかなか伝わらなかった。しかし、根気よく伝えているとだんだん浸透してきた。礼儀がしっかりしてくると技術も向上してきた。卒業生アルバムである生徒が「部活は本当に厳しかった。最初はつまらなかった。でも、先生の言うことをしっかり受け止めて行動すると自分が成長できた。」</p> <p>自分の大切にしている部分は、時間は掛かっても必ず相手に伝わることを実感できた。</p>
中学校	30代	<p>普段はやることをやらなかったり、きつい言動で周りを困らせていた生徒が、修学旅行で同じ班の支援を必要とする生徒の手をとり、京都を楽しそうに回っている姿を見て、改めて人それぞれ良いところがあるんだと感じました。</p> <p>その日から見る目を変えて、出来たことを褒め、いいところを見るようにしたことにより、生徒の姿勢も変わりました。一生懸命勉強し、高校に合格することができたときの「ありがとうございました」の一言で胸が熱くなりました。</p> <p>私の一言で生徒の未来を変えられる、それを信じて今日も生徒と向き合いたいと思います。</p>
中学校	30代	<p>不登校の生徒の担任になった。学校に来られなかった週は、家庭訪問を行った。その生徒は、釣りや魚の飼育が趣味だった。私も金魚を飼っていたため、飼育法を聞くなどして少しずつ関係を築いた。次第に、週1～2回登校できるようになった。将来の夢について話し合うと漁業関係の仕事に就きたい思いがあることが分かった。3年生になると将来の夢につながる進学先を具体的に考え、そのための登校を働きかけた。すると、毎日登校できるようになり、学習にも意欲的に取り組むようになった。最終的に志望校に合格することができた。また、後日、高校でも頑張っているという話を聞いて、目標を持たせることの大切さを実感した。</p>
中学校	30代	<p>集団行動で課題が見られる生徒に教員がチームとなって、生徒を思い、様々な支援をし、少しずつ改善が見られた。卒業時のメッセージで感謝の気持ちが綴られていた。日々生徒を思い、信頼関係を深めていくことの大切さを感じることができた。</p>

※エピソードをお寄せいただいた皆様の思いを尊重し、個人が特定できる記述、明らかな誤字・脱字等を除き、文章は改変せず掲載しています。

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
中学校	30代	<ul style="list-style-type: none"> ・私が誕生日を迎えたときに、朝、教室に入ると、担任している生徒たちが、誕生日の歌を歌ってくれました。子どもたちから受けるサプライズに驚かされた経験でした。 ・異動をするとき、わざわざ会いに来てくれる生徒が多くいました。新天地が遠方だったため、別れを惜しむ言葉を生徒からもらったとき、喜びを感じました。
中学校	30代	<p>若い頃初めて中学三年生を受け持ち、とても大変な経験をしました。生徒と向き合い何とか卒業まであと少しの所で最後の学年集会を行いました。大変盛り上がる中突然大地震に見舞われました。（東日本大震災）生徒は無事でしたが大きな恐怖を今でも鮮明に覚えています。卒業して昨年、たまたま車を車検に出そうとしたところ突然声をかけられました。東日本大震災を共に経験した生徒でした。大学卒業後就職したままたま出会いました。あの頃の話や現在の生徒たちの話が出来てなんともいえない気持ちになりました。生徒が卒業し立派になっている姿をみることは教師にしか出来ない経験です。</p>
中学校	30代	<p>高校生になり、就職しようとした生徒が学校事務の試験を受けようとしていた。 なぜその就職しようとしたか尋ねたら、中学校の時の事務の人がその生徒や他の生徒に親切で丁寧な対応をしてくれたことを、高校生になっても覚えていたそうです。その時のことが忘れず、自分も同じようにしていきたいと思い、試験を受けたそうです。結局は試験を合格しましたが、違う仕事について聞きましたが、できれば同じ職種で働きたかったと思いました。働いているときはそのようなことは考えてなく仕事をしていましたが、少しでも児童・生徒により経験をあたえられたらと思いました。</p>
中学校	30代	<p>3学年を担当していた年の出来事です。合唱祭が近づいていたため、良い合唱ができるような取組を生徒たちと一緒に考え、実践していきました。時には私自身が夜遅くまで模造紙に歌詞を書いたり、歌う時に気をつけることなどを記入したり、CD音源を作ったりしていました。そんな私を見てか、合唱祭当日には、生徒たちから私への感謝の黒板メッセージや、歌う直前のクラス紹介で「担任の先生のために歌います」というサプライズをしてくれました。残念ながら金賞とはなりませんでしたが、気持ちの込もった感動的な合唱となりました。さらに、この翌日には私の長女が生まれ、教室前後の黒板に、びっしりとお祝いメッセージを書いてくれました。この時も私は涙を流し、本当に忘れられない2日間となりました。</p>

※エピソードをお寄せいただいた皆様の思いを尊重し、個人が特定できる記述、明らかな誤字・脱字等を除き、文章は改変せず掲載しています。

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
中学校	30代	ソフトテニス部で顧問をしていた時、部活動に入ったばかりの1年生に基礎練習をみっちり行いました。何度も球出しを行い修正点を伝えては練習するの繰り返し。一緒に汗を流して体が日焼けで真っ黒になるまで行いました。3年生になった時、私は違う部活動の顧問となっていましたが、その生徒達は県大会に出場することができました。その時に「〇〇先生が1年生の時に基礎をしっかりやってくれたから県大会に出場することができました」と言われ、生徒と一緒に汗を流して練習した日々は決して無駄ではなかった、そして、その思いは子供たちに伝わっていたのだと思いました。
中学校	30代	小学校時代の一番の思い出は、先生に教わったバスケですと、卒業後12年たって言われた。勉強なんかより、そういう行事の大切さを再確認。
中学校	30代	3年生を担当した時の話です。中学校生活最後の合唱祭に向け、練習を毎日頑張っていたクラスの生徒たち。本番当日、一生懸命練習してきた生徒の1人が風邪を引いてしまい欠席することになってしまいました。全員で参加するという目標が叶わず、残念に思っていた生徒の1人が、欠席した生徒の風邪が治り登校してきたら、クラスの合唱祭をしようと提案してくれました。その提案にクラス全員が賛同してくれ、後日、クラスだけでの合唱祭を行うことができました。全員で歌うことができ、クラス全員が満足して終える事ができました。クラス全員の思いやりを感じた瞬間でした。
中学校	30代	部活動で一年生の時は活躍できなかった生徒。私の勧めで、種目変更をすることに。最初は嫌がっていたが、一緒に懸命に頑張り、大会の度に成果が出るようになった。そして三年生になると、日本一になるまでに成長した。生徒が「先生が私の可能性を広げてくれた」と言われたとき、それまでの苦労が涙に変わった。出会いは奇跡。自分の輝ける場所を見つけたいこう！

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
中学校	30代	<p>私の勤める市町村の給食は学校給食センターで作っています。 そのため、給食に関わっている私は小学校から中学校まで回りながら食育指導を行っています。 小学校の時には、好き嫌が多く、給食をほとんど食べない子がいました。 その子に対して、食の大切さなどを年々指導し、「一口からでいいから食べてみよう」と促していました。 すると学年が上がるにつれてだんだんと食べられるものが増えていきました。 そして中学校3年生で卒業する頃には、ほとんどの給食を残さず食べ、おかわりをするくらいまで変わりました。 きっかけは少しのことでも、長い年月をみていくと大きな変化になると感じさせてくれた一人の生徒です。 その後も、好き嫌いの多い児童生徒には少しずつでいいから食べてみようと呼びかけています。</p>
中学校	30代	子どもたちが心を込めて素敵な合唱をしてくれました！とっても感動しました！ありがとう(^^)
中学校	30代	成人式で久しぶりに再開し、現況や将来の夢を熱く語ってくれたとき。この仕事は将来の人材を育てる尊い職業であると感じました。
中学校	30代	「先生のおかげで一番苦手だった国語が一番得意になりました。」と言われたことです。

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
中学校	30代	<p>公立中学校の教員になって、初めて1年生の担任を持った年の修了式の日のこと。</p> <p>1年間一緒に過ごしたクラスでの最後の学活の最後の説話を終えようとしたとき、一人の生徒が「ちょっと待ってください！」と大声を上げた。どうしたのかと聞くと、「私たちから歌を贈ります。先生は今日は歌わずに聴いてください。」と言われた。クラス全員で歌ってくれたのは、合唱祭のクラス曲のメロディーに、担任への想いを歌詞に乗せた替え歌だった。私は自然と溢れ出てくる涙を抑えられなかった。</p> <p>歌が終わると、「まだあります！」、「まだあります！」と、たくさんのプレゼントをくれた。生徒たちがくれたのは、「替え歌」、「全員の寄せ書き」、「全員の似顔絵」、「写真をレイアウトしたコルクボード」の4点だった。でも一番心に響いたプレゼントは、「企画や準備をしてくれた生徒たちの心遣い」だったと思う。</p> <p>内心、転職も視野に入れて考えていた私に、今の仕事为天職であることを気付かせてくれた、そんな人生のターニングポイントとなった1日だった。今の私があるのも、この日があったおかげであろう。お金では買えない“最幸”の感動を味わえるこの仕事が、私は大好きです。</p>
中学校	30代	<p>初担任のクラスで学級委員をしてくれた生徒がいました。</p> <p>担任として右も左も分からない私を、何度もサポートしてくれました。</p> <p>2・3年生ではクラスも変わり、授業も担当しなかったので、すれ違ったときにあいさつをする程度の関わり方になりました。</p> <p>そんな中迎えた卒業式。卒業生答辞でステージに並ぶ生徒達を眺めていると、彼と目が合いました。感動の卒業式を終えて、卒業生を見送っていると彼が私の前に来て、</p> <p>「卒業式で先生と目が合って、涙が溢れてきました。3年間ありがとうございました！」</p> <p>私にとって忘れられない初担任のクラスで印象深い生徒だった彼からのその言葉に、再度涙が溢れました。うまく言葉にはできませんが、彼と想いを共有できた気がして嬉しい瞬間になりました。授業、生徒会活動、部活動・・・様々な場面で想いが通じ合う経験ができるように、生徒とともに成長していきたいです。</p>
中学校	30代	<p>一年生の頃から何かとトラブル続きだった生徒。放課後に面談をして趣味の話の聞いたり、物を壊した時には一緒に修理もしました。卒業式の日、彼は『お世話になりました』と言ってお菓子を手作りして持ってきました。粘り強く指導し、時には優しく寄り添って、向き合う事ができました。</p>

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
中学校	30代	<p>学活の時間に実施したソーシャルスキルトレーニングで、「友達のいいところ探し」を行いました。生活班になり、生徒が班のメンバーの長所を付箋に書いて送り合いました。授業が終わる頃、何人かの生徒が、「先生の良いところも書きました！」と言って、付箋を渡しに来てくれました。「優しい」「字がきれい」「授業が楽しい」など、どれも嬉しくなる言葉ばかりでしたが、「誰にでも平等」というメッセージを目にしたときに、一番、“嬉しい、よかった”と思いました。クラスの中の目立ちやすい生徒だけでなく、自分から話をしないような生徒でも、みんな、同じように関わっていきたくて、日々の授業や休み時間に声をかけてきたからです。生徒から初めてもらった「誰にでも平等」という言葉は、教員としては当たり前のことなのだと思います。しかし、たった一人にでも生徒に“伝わったこと”が私の自信になり、これからも信念として続けていきたいと思っています。</p>
中学校	30代	<p>先日のことです。 私は中学校数学科の教員です。臨時採用の期間も含めると15年目になります。 3年生の特別支援学級のクラスに、数学の補欠監督に行きました。 今年度、私は特別支援学級の授業は持っていないので、彼らとは掃除の時間等で係わることぐらいしかありませんでした。 内容は連立方程式の解き方でした。 私なりに、彼らを楽しませながら、そして計算方法を納得させながらの授業を行いました。 彼らが普段の数学の授業をどのように行っているか見たことがなかったのですが、終わりのチャイムが鳴り終わっても解いていました。 その日の帰りの会、特別支援学級担当の先生が、数学の授業の感想を聞いてみたそうです。 そうすると、とても楽しかったと喜んでいて、という話を聞きました。 私自身も嬉しくなったとともに、教員を目指した理由、教員駆け出しの頃の自分を思い出したような気がしました。 こういう感動があるから、教員の仕事は楽しいのだと再認識できたシーンでした。</p>

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
中学校	40代	<p>私は学習支援員をしています。</p> <p>担任する生徒はいません。 支援員として生徒と接し、いつも明るく笑顔で挨拶をする事を心がけています。</p> <p>この仕事をしていて良かったと思う時は、こんな手紙を貰った時です。</p> <p>「いつも明るく声をかけてくれてありがとうございます。先生の笑顔を見ると、私も笑顔になれます。」</p> <p>また、掃除の時間なのに鏡の前で前髪をとかして中々掃除をしてくれない生徒でどんな声掛けがいいのか悩む事もあった生徒から貰った手紙では、</p> <p>「掃除の時間に一緒にそうじを手伝ってくださり、きれいにするアドバイスをしてくださりました。また、いつもニコニコ笑顔であいさつしてくださったりとても嬉しかったです。」</p> <p>反発もたくさん受けたのですが、諦めずに声を掛け続けていた事は結果として、私が思っていたよりも生徒に伝わっていたのだと嬉しく思いました。</p> <p>日々生徒を触れ合う事は、本当に楽しく生徒から元気を貰えています。</p> <p>これからも生徒たちに元気の種を配り、花を咲かせてあげられるよう支援していきたいと思います。</p>

教職員所属

年齢

「未来を育てる、わたしたち。」エピソード

この仕事をしていると、悲しくて涙が出ることがあります。

何度注意をしても直さない生徒がいたり、
「うるせえ」と暴言を吐かれることもあります。

それでも私はこの仕事に誇りをもっています。

中学校 40代

この仕事をしていると、嬉しくて涙が出ることがあります。

何度も注意した生徒がいつか更生し、
「ありがとう」と言ってくれることがあります。

それなので私はこの仕事大好きです。

中学校 40代

「自分の力量では厳しいと、嫌になって勉強しなかった時期があった、みんな頑張っていたのに、そんな自分が受かるわけがない、自信がない」と、受験前日、苦しい胸の内を打ち明けに保健室へ来室したY君。「人はバイオリズムがあるから、気持ちが下がるときもある、勉強しない時期があったのは、たまたまそういう時期だっただけ。誰にでもあるのだから気にしないのよ。それより、本当に縁のある学校だったら、絶対に受かるから大丈夫なの。実力が出せるし、結果がついてくるのよ。どーんと構えてY君は、〇〇高校に受かる！〇〇高校に通うんだ、と思って受験を愉しんでね」と、返しました。強張った表情だったY君は、保健室を出る頃にはにこやかに和らいだ表情になっていました。受験結果は、見事合格！！「先生、受かりました！！」と満面の笑みで報告にきてくれました。希望校での輝かしい生活が始まりました。今は、どんな毎日を送っているのでしょうか。きっと、高校卒業後の進路を視野に、文武両道、勉強に部活に学校生活に励んでいることでしょう。

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
中学校	40代	<p>異動して3年担任。そのクラスには不登校の生徒がいた。毎週金曜日には、その生徒と会うことを目標に、授業等のプリントやお知らせをもって家庭訪問を続けた。生徒に会うことはできず、保護者にお願いをしても駄目であった。何とか学校に来てもらいたいと、手を変え、品を変えアプローチをした。例えば、1, 2年からの学年の先生、クラスメイト、部活動の友達にお願いして、プリント等を届けてもらった。それでも生徒に会うことはできなかった。卒業アルバムも昔の写真を載せた。卒業式を迎えた。生徒は来なかった。第二卒業式は保護者が生徒の代わりに卒業証書を受け取った。受けもった生徒に一度も会うことなく卒業させたのは教員人生で初めてであった。その生徒に何もできなかったと自分を責めた。生徒はその後、通信制の学校に通っているらしいという話を聞いた。</p> <p>5年後の成人式、学年の集まりに招待された。一人の生徒が私の前にやってきた。持ってきた卒業アルバムの写真とその生徒の顔をつなげるのに必死になっていた。私が困っていると、その生徒は名前を言った。その生徒であった。思わず立ち上がり、その生徒の手を握りしめた。生徒は言った。「先生、あの時はお世話になりました。御迷惑をおかけしました。先生や友達がプリントなどを毎週持ってきてくれていましたね。私は今、教師を目指そうと思っています。ありがとうございました。」乾杯をしながら、自然に涙が出てきた。</p> <p>教師の仕事はすぐには成果が出ない。辛抱強く、地道に生徒に寄り添いながら、対話する。生徒の将来を一緒に夢見て、目の前の生徒を全力で育て、支援する仕事である。教育とは、「人が他人に意図をもって働きかけ、望ましい姿に変化させ、価値を実現する活動」である。まさに教師冥利に尽きる日であった。人の成長を見届けられる教師という職業は、責任のある、やりがいのある仕事だ。</p>
中学校	40代	<p>教員をやっている、15年以上経つ。学校が荒れてしまい、出勤するのが辛い日々が続いた時があった。空き時間は、教室から抜け出した生徒を見つけにいかねばならないので、空き時間になってほしくなかった。周りの先生方も手をわずらわせる生徒とは接しないようにしていることがわかるようになってきてしまっていた。</p> <p>でも、悪い事をした生徒に接する時は生徒の考えがあるはずなので、どうして悪い事をしたのか聞いてから対応するようにしていた。いけない事をした時は、ダメだと教えた。</p> <p>5年後、夏祭りでやぐらの上で堂々と大太鼓を叩く生徒の姿があった。私の顔を見るなり勢いよく降りてきて、「俺、ちゃんと働いてます。」と挨拶に来てくれた。他にも、卒業生に会ったが、あれほど気持ち良い挨拶をしてくれた生徒はいなかった。時間はかかったが、生徒は必ず成長すると感じた時だった。</p>

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
中学校	40代	<p>一生懸命、問題に取り組んで解けた時、キラキラした瞳でうれしそうにこちらを見る……。 この瞬間が私は一番好きです。 そんなうれしそうな顔に私は支えられ、日々頑張れます。 よし、私も負けないぞ。</p>
中学校	40代	<p>初めて担任したクラスは、個性が豊かで生徒同士が衝突することも多々ありました。担任経験のない私は、生徒と向き合い、話を聞いては解決策を探す日々でした。その後、生徒たちから「先生の一生懸命な姿が嬉しかったです。」とメッセージをもらいました。毎日必死でしたが、大人が頑張る姿を子どもたちは見て成長していったなと感じました。生徒数人からは今でも年賀状が届きます。進学したことや、就職の報告を見ると、この仕事の大切さを実感します。</p>
中学校	40代	<p>男子が元気のいいクラスがあります。1.2年生では、体育の授業で試合中に白熱すぎてケンカになったり、審判をしているチームが罵声を飛ばしたりと雰囲気はよくありませんでした。3年生になって同じ体育の授業の試合中、審判をしているチームがいいプレーをした友達を拍手をして褒めてあげていました。励ましの声をかけ応援していました。 3年かけて先生方の指導の素晴らしさを感じ、子供たちの心の成長に感動しました。</p>
中学校	40代	<p>毎日生徒たちと顔を合わせる中で、時々聞かれることがある。 「先生は楽しい？」と。そんな時は「楽しいよ。」と笑顔で答える。 すると、大抵の反応は「へえ。」と少し驚く表情になる。 きっと疲れた大人たちばかりを見ているのだなと感じる。 なので私は必ず「楽しいよ。」と答えることにしている。 大人になることを楽しみにしてほしいから。</p>

※エピソードをお寄せいただいた皆様の思いを尊重し、個人が特定できる記述、明らかな誤字・脱字等を除き、文章は改変せず掲載しています。

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
中学校	40代	同級生から、からかわれてしまう生徒の相談にのった時、最後に「私は〇〇の味方だよ」と励ました。時が暫く経ってから、その母親から、「あの時の先生の言葉にあの子は救われました。」と言われた時に、教師をやってよかったなと思いました。
中学校	40代	当時学校から足が遠のいていた生徒に対して、不安に感じていることを共有した。卒業まで教室に入ることはできなかったが、自分なりにその生徒に精一杯寄り添うことができた。時が経ち、その生徒の代の成人式に呼ばれたとき、真っ先にその生徒が自分のところに挨拶してきた。「当時、自分でも自分の人生がどうなるのか不安でした。けれども先生が話を聞いてくれたおかげで今があります。今日はその時のお礼を言いに来ました。」このときに自分は教師としてのやりがいを感じたと同時に、教育というものはずいぶん結果を求めるものでないことを知った。その生徒は現在自分のやりたい仕事について一生懸命頑張っている。
中学校	40代	勉強がとにかく苦手な生徒に英語を教えています。英語を読めなくても良いからせめてローマ字を読めるようになってほしいと思って指導してきました。歌でアルファベットに興味を持たせたり、生徒が好きなサッカーや国を調べるのにローマ字を使って検索する、ローマ字しりとり、など色々試しましたが、なかなか読めるようにならないまま2年生半ばになってしまいました。ある朝「先生、ローマ字できるようになりました。ローマ字って便利ですね」と言いながら教室に入ってきました。ボロボロになったローマ字一覧表が彼の努力を物語っているようで、ほっこりとした気分になりました。
中学校	40代	<p>担任していた生徒に、場面緘黙の生徒がいた。御家庭では話をするが、学校では一切話をしなかった。私たちは、彼に対して無理して発言させることもなかったが、特別扱いもしなかった。彼は、人間関係は良好で、授業中の発言などについては、友人が彼のフォローをしていた。</p> <p>当時、私は林間学校の主担当で、林間学校の最終日に「立志式」を企画した。行事を通してどのように成長し、今後どのような人間になるのか、学級の仲間に誓うというものだ。一人一人が発言し、場面緘黙の彼の番になった。すると、彼は友人に頼ることなく、自分の言葉で自分の思いを語りだした。彼の中で、自分の思いを仲間に伝えたいという思いがあふれたのだろう。その姿を見て、私は涙が止まらなかった。それ以降、彼は控え目ではあるものの、学校でも話をするようになった。</p> <p>子供たちは誰も成長したいと望んでいる。その成長のきっかけや仕掛けを作るのが教員の役割なのだと思う。日々の授業や行事などのなかで、子供たち一人一人が成長する瞬間を見極め、その子自身が自分で成長する一歩を踏み出せるような後押しができる、そんな教員でありたいと思っている。</p>

※エピソードをお寄せいただいた皆様の思いを尊重し、個人が特定できる記述、明らかな誤字・脱字等を除き、文章は改変せず掲載しています。

教職員所属 年齢 「未来を育てる、わたしたち。」エピソード

中学校 50代
 校長になり、授業で生徒たちに話をする機会がなくなりました。その分、全校朝会の講話や学校だよりの巻頭言に力を入れています。校長の話と云えば長くて退屈なもの、そう思われぬように、何度も推敲して、量にも内容にも時間をかけて全力で準備しています。
 ある時、生徒が感想を書いてくれました。「校長先生のお話は、いつも心に残るいいお話なので、毎回楽しみにしています。」
 ある職員が校長室にやってきました。「校長先生、今回もいいお話をありがとうございました。」
 月に一度の全校朝会と学校だよりの巻頭言は、校長の仕事の中で一番好きな仕事です。

中学校 50代
 運動が苦手といってソフトテニス部に入部してきた生徒。成人式で久しぶりに会ったときに教師を目指していると報告を受けた。最後の試合ですぐに負けてしまった生徒に「毎日休まず努力していた君は優勝にあたいするよ。自分らしく今後も頑張れ」と言ってくれた言葉が教師を目指すきっかけとなったと伝えてくれました。

題名) 湖面のようだろうか

中学校 50代
 四十年以上も過ぎている校舎の学校ですが、床やろうかが今でも掃除がいき届いていてピカピカに輝いています。来校されたどの方も床やろうかのきれいさには驚いています。
 これは毎日の清掃時間に生徒がクレンザーやスポンジたわしを持ち、無言で清掃してくれるいるからです。それは、毎年受け継がれてきた良い伝統で、生徒一人一人が誇りにしています。
 すこし大きさに例えるならばボリビアの湖面に映るウユニ塩湖の様な床やろうかです。
 床やろうかだけでなく、心もきれいな生徒たちが毎年、この校舎で育ち、巣立っていったことが感じられます。
 「世界の絶景」も見てみたいですが、世界の絶景にも引けを取らない場所で、毎日仕事をしているとあらためて感じています。

※エピソードをお寄せいただいた皆様の思いを尊重し、個人が特定できる記述、明らかな誤字・脱字等を除き、文章は改変せず掲載しています。

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
中学校	50代	<p>とても課題の多い生徒が、良く話を聴き、保護者と連携して、生活リズムを整えることで、大きな成長を遂げます。生徒の未来をマイナスに決めつけることは決してしてはいけなないと考えています。</p> <p>君には可能性がある を繰り返し伝えていくことが大切だと思います。 注意する時は必ずこうなったらこう良くなると具体的に示すと、叱られた生徒も顔が上がり前向きにがんばってくれます。 日々の関わりと愛情が最大のビタミン剤と考えています。</p>
中学校	50代	<p>清掃分担で、トイレ掃除の担当となる班があった。「汚いから嫌」と気持ちが清掃時の態度で出ている。 確かに、「汚い」作業ではあるが、「誰かが、その作業をしないといつまでたってもきれいににならない」ことを、天台宗の開祖伝教大師（最澄）の「一隅を照らす（山家学生式）」のことばをたとえながら、慈・悲・喜・捨の心をもつことの大切さを伝えた。 その後、このことばに触発されたのか、トイレの担当の生徒たちは、黙々とトイレ清掃に励み、トイレがきれいなことに、喜びと達成感を感じていた。</p>
中学校	50代	<p>中2頃から不登校になり始めた女子生徒が3年の進路選択で、定時制にするか迷っていたが、最後は、職業系の高校に進み、行って良かった、頑張っているという話を聞き嬉しくなりました。卒業してもその先で頑張っている生徒がいるとやってきたことがどこかでつながっている感じがします。</p>

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
中学校	50代	<p>その子との出会いは中学2年生。 小学校から不登校で学校に来ることはありませんでした。 2年生の学年に所属し、始業式の前に家庭に出向きました。 しかし、保護者と会えてもそのこと会うことはできませんでした。 その後、週に1回のペースで家庭訪問を行い、手紙を保護者に預けました。 中学2年生では結局会うことはできませんでした。 3年生に進級し、再び担任となり、同じ事の繰り返しでした。</p> <p>3年生の2月下旬、保護者から会いたいとの連絡が入りました。 家庭訪問すると、顔を出して「今までありがとうございました。」と言ってもらえました。 卒業式には参加できませんでしたが、その日の午後に卒業証書を渡すことができました。</p> <p>卒業後は定時制高校に進学し、なんとか通えているとの連絡を受けました。 直接会うことはなくなりましたが、年賀状のやりとりだけは今でもあります。 直接あえなくとも、心は通じるのだと感じた経験です。</p>
中学校	50代	<p>入学当時より不登校（全欠）だった生徒宅に家庭訪問をしました。学校からすぐということもあり、毎日家庭訪問（1日30分程度）を繰り返しました。最初は話ができず、顔も合わせず、母親と話をするだけでしたが、アニメが好きだということが分かったことをきっかけに話が盛り上がるようになって2学期には家庭訪問後、一緒に歩いて登校し、教室に入ることができるようになりました。3学期は朝から教室に入り、登校できるようになりました。私自身が毎日の変化に楽しみを感じ、家庭訪問を続けたこと、コミュニケーションがうまくいったことの結果がこの生徒の不登校解消につながったと思います。</p>

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
中学校	50代	<p>いつもは、生徒の立場に立ち優しく接してくれるけど、いけないことをした時は、真剣に叱ってくれたので先生が担任で本当に良かったですという内容のお手紙を保護者の方からいただき、いけないことをした時に毅然とした態度で、繰り返し繰り返し指導して良かったと思いました。</p> <p>成人式の時、本人からもあの時、先生が言ったこと今わかるよという言葉が聞けて嬉しかったです。</p> <p>あきらめずに関わり続け、いい続けることが大事なんだと言うことを教えてもらいました。しかし、教員も人間なので、生徒指導していろいろ言われ大変な時もありますが、その時伝わらなくても、後で分かってもらえることもあると思うので、今後も、ダメなものはダメという毅然とした態度でのぞみたいと思います。もちろん、生徒の良いところをたくさん見つけ褒めて伸ばすことも大切にしたいです。</p>
中学校	50代	<p>私が新任として着任した学校はとても荒れていて、校内暴力などが頻発していました。課題を抱える生徒との距離を縮めるため、私はその生徒を含む数人を自宅に呼び、趣味としてやっていたギターを教えました。問題行動等を起こしてしまうエネルギーを少しでも良い方向に向けられないかと考えたためでした。</p> <p>30年という時がたち、同窓会の案内が届きました。それには案内とは別に一通の手紙が付されていて、そこには「同窓会の時に一緒にバンドをやりたいのですが、可能ですか。」との言葉がありました。そこに記されていた連絡先に「もちろん可能だよ」と連絡を取ると、「先生にギターを教えてもらってから、ギターが好きになり、バンドをやったりしていたんですよ。今でも時々『おじさんバンド』をやっています。だから同窓会で披露したくてお願いしたわけです。」との話でした。</p> <p>練習を数回行い、同窓会は大成功。バンドメンバー揃いのTシャツもプレゼントされて、言葉に表せないほどの感動を味わわせてもらいました。</p> <p>教育は、未来への「種まき」なんだなとその時感じました。どんな形で芽が出るのかわかりません。すぐに出るときもあるかもしれないけれど、ずっと経ってから芽が出て立派に育っていたことを知るということもあります。私たちは毎日、いろんな種を蒔いているはずで、良い種を子どもたちに蒔くのが私たちの役目であり、責任であることを、全ての先生方にわかってもらえたらと思っています。</p>
中学校	50代	<p>不登校の生徒が登校出来た日にその生徒の好きなアニメの黒板アートをその生徒のために何回か描いていたところ生徒は、楽しみにしてくれて登校する楽しみにつなげてくれた。とても嬉しい思い出でした。</p>

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
中学校	50代	<p>私が若かった頃、20年ほど前になるでしょうか。経験人事を経て2校目の学校に勤務していた時の話です。当時はバスケットボール部女子の顧問を担当しており、部員数も多く、力のある部員が多かったことから、最大限の結果を残したい、経験させたいとの思いから、今から思うと厳しい指導をしていたのだと思います。</p> <p>勤務している間に幸いなことに、1年間の研修をさせていただくことになり、学校と部活動から離れる機会がありました。1年後に学校に戻り、またバスケットボール部女子の指導を始めた時のことです。もう少しでレギュラーになれるという部員から、「先生は、1年間学校を離れる前と比べると怒らなくなった」と言われました。そのとき、ハッと、心臓がドキンとしたことを今でも覚えています。部員のためを思い厳しく指導をしていたつもりですが、部員にとっては怒られている、と感じていたのでしょうか。</p> <p>その後、私をハッとさせてくれた部員たちが卒業したのち、いつもその言葉を思い出し、部員にかける言葉も考えて発するようになっていました。なかなか県大会に進むことはできませんでしたが、別の学校に移動した直後の春の大会で県大会に出場したということを風の便りに聞きました。</p> <p>今は管理職の立場ですが、この経験を忘れず、生徒や先生方と向き合っている毎日です。</p> <p>「先生は怒らなくなった」、私の教員人生を変えてくれた生徒の一言です。</p> <p>今ではその生徒も保育園の先生として、怒らずに小さい子供たちと向き合っています。</p>
中学校	50代	<p>英語科の教員を30年続けています。知識や技能を教え、身に付けさせることももちろん教科指導では大切ですが、長く教えているともっと大切なことがあると感じています。学び方や学ぶことで自分が変容する、または成長する、そしてもっと知識や技能を身に付けて生き方を豊かにしたくなるという自然な欲求や満足感を中学校時代に実感させられるかどうかによって未来が大きく変わることを伝えることが、目先の点数を伸ばすことよりもはるかに重要と感じます。「英語」という教科学習の中で、将来の生き方や夢を見つけ、卒業してから、「あのとき先生が言っていた・・・」と言われることが何よりうれしく感じます。一昨年の成人式、ある生徒に「先生が中学校で強調していた『品詞の感覚を身につける』ってということが大学生になってすぐ実感できています。入門期には理由がわからなかったけど、今になって言葉って機能を理解することですごく伝わりやすくなるんですね。今は英語の教師になることが夢です。信念をもって教えられる教師になりたいです。」と言われました。小さなことですが、このように何かを次世代に伝えられる教師でありたいです。</p>
中学校	50代	<p>この歳になり、教え子たちから誘われて呑む機会があります。教員になって柔道部の顧問になった頃の教え子たちです。自分も若かったので、休みもなく部活動に熱中していました。あの頃を思い出すと、厳しい練習に子供たちも本当によく頑張ったなあと思います。本気で子供たちと向き合うことで、辛かった練習も笑えて話せるようになりました。子供たちから、「苦しかったけど、中学のときが一番充実していました。」「先生に柔道を教わって本当に良かったです。」という言葉聞いたとき、教師になって良かったと、しみじみ感じます。教え子とのふれあう時間が、教師としての喜びであり、他の職業では味わえないと思います。本当に教師になって良かったと思っています。</p>

※エピソードをお寄せいただいた皆様の思いを尊重し、個人が特定できる記述、明らかな誤字・脱字等を除き、文章は改変せず掲載しています。

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
中学校	50代	<p>木枯らしが吹く季節になると思い出すのは『合唱コンクール』です。『合唱』は、私の学級経営の重要なツボで、クラスの団結深めるのには打って付けの行事だと考えています。担任として子供たちと本気で向き合い、様々な仕掛けをしながら曲を作り上げて行く過程で生まれるエピソードは、笑いあり涙あり心の成長が期待できるからです。</p> <p>合唱練習の時期は、朝・昼・放課後と合唱漬けになります。子供たちも大変ですが、担任の私は胃が痛くなる思いで練習に関わります。上手くいくことなんて無いです。男女が分裂して練習が止まることも度々、そのたびに私は仕掛けを修正しなければならないのでエネルギーを消耗します。担任の本気の姿勢は子供たちにも伝わり、子供たちは一日一日練習を重ねる毎に確実に成長していきます。優勝を目標に一人また一人と協力者が増え、心が一つになっていく様子を見届けることができるのは教師冥利に尽きます。</p> <p>コンクール当日の朝練習、早朝の冷たい空気の中、屋外で声出しをするのは辛いだらうと考えた私は、前日に買い占めた卵で熱々の茹で卵を作り子供たちにカイロ代わりに配りました。茹で卵で温まり歌声も一段と高らかでした。心も体も温まり、皆で優勝の願いを込めて食べた茹で卵の味は格別でした。</p> <p>そして本番、歌い終わりいよいよ結果発表、子供たちと大切に紡いできた熱い思いが満開になったあの瞬間「3年3組優勝」、校長となった今も私が大切にしている学級担任としての誇りです。</p>
中学校	60代以上	<p>2010年の暮れに25年前に卒業した生徒から連絡がきた。「2回目の成人式と題して同窓会をやるので是非出席してもらいたい。日時は来年3月20日です。」私が最初に赴任した中学校の最初に卒業させた生徒からであった。当時のことを思うと懐かしさと恥ずかしさが頭をよぎった。年が明けて2月には、当時担任した生徒がインタビューに来たことを覚えている。40歳になった生徒が会いに来てくれて、お互い照れながら懐かしい思い出に話が弾んだ。</p> <p>今年、再任用で働く私にとって、30年間担任した思い出は数々あるが、卒業した生徒と話せる機会は少ない。特に、親となった教え子と思い出話ができる機会ははともうれしかった。この出来事が忘れられないのは、会場が遠方で行くことが困難なため参加できなかった私のために、3ヶ月後、教え子数名が私を宴席に招待してくれたことです。</p> <p>楽しいひと時を過ごせました。この機会に今度は、私の方から連絡してみようと思います。</p>
中学校	60代以上	<p>ある学級だよりでクラスの一人一人にメッセージを送る内容のものを帰りの会で配布しました。しばらくしてからある生徒が「先生、なぜわかったの？」と質問にきました。その生徒に送った内容は、エールを送る的な内容でした。何を悩んでいたのかは掴みきれっていませんでしたが、悩んでいることは、普段の様子からなんとなく感じられていたので、何気ない一言ではありましたが、気持ちが伝わればという程度の思いでした。しかし、受け取ってくれた生徒にとっては、理解者がいるのだという安心感を感じてくれたのか、表情が明るくなりました。この機会を通して、言葉の大切さを再認識しましたし、単純でも気持ちを伝えることは重要なのだと感じました。</p>

※エピソードをお寄せいただいた皆様の思いを尊重し、個人が特定できる記述、明らかな誤字・脱字等を除き、文章は改変せず掲載しています。

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
中学校	60代以上	<p>私は中学校の校務員をしています。日頃より清掃の時間に、子どもたちと楽しく外清掃に取り組んでいます。今回は、私の心に強く残っていることから、今の想いを述べさせていただきます。</p> <p>もう数年前の話になりますが、外の清掃をしていた時のことでした。私は、校舎の北側にあった側溝がとても気になっていました。土が厚く積もっていて、枯れ葉やゴミもたくさん詰まっていた。当然、水なんてまったく流れない状況でした。その上、側溝には蓋がされていて外すことができず、その奥の方まで詰まっている様子でした。ここをきれいにするとなると、とても大変な作業となることは目に見えていて、誰もが手を付けたくないような状況でした。私は、一緒に掃除をしていた外清掃担当の数名の生徒に「きれいにしてくれないかな？」と軽い気持ちで声をかけたところ、「そうですか、僕たちがきれいにして流れるようにしましょう！」と作業を始めてくれました。その時、私はあまり多くを期待せずに「大変だから、大体でいいからね。」と軽い気持ちで考えていました。</p> <p>その後、数日が経過しても作業はずっと続けられていました。蓋がされている部分の泥の除去が難しく、なかなか進んでいないようでした。でも生徒たちは掃除の時間のたびに一生懸命取り組んでいる姿がありました。蓋が外せなかったので、どこからか長い棒を持ってきて、一生懸命泥を掻き出しては捨てに行くという地道な作業を嫌な顔もせず、熱心に取り組んでくれました。</p> <p>そんなある日、その掃除担当の生徒の担任の先生から、「Aくんが5時間目の授業中に『今降っている雨はやみますか？』と聞いてきたんですよ。『どうして気になるの？』と聞き返したら、『もう少しで側溝が貫通しそうですね』と言っていました。授業中で授業に集中していないのは困るけど、本当に掃除のことを一生懸命考えているようなんです。」という話を伺いました。</p> <p>私は軽い気持ちで頼んだことでしたが、そこまで一生懸命に清掃のことについて考えてくれているということを知り、本当に驚きました。中が暗くて見えない土管の中まで、自分の顔に泥がついてしまうことも構わず熱心に掃除に取り組んでいたAくん。Aくんだけではなく、他の班員の人も同じようにジャージが汚れるのも気にせず、膝をつき側溝の泥をスコップで掻き出したり、ゴミを捨てに行ったり、本当に「そこまでしなくても・・・」と依頼した方も申し訳ないと思うくらい熱心に取り組んでくれました。なかなかうまくいかない作業を試行錯誤しながら、班員が一丸となり最後まで困難を乗り越えてやった結果、見事に側溝は綺麗になり、水が流れるようになりました。達成できた時の誇らしげな生徒たちの表情は、私も鳥肌が立つくらい嬉しかったのを覚えています。</p> <p>今でも私は生徒たちと外清掃を担当して掃除に取り組んでいますが、この話は担当の生徒が変わるたびに語り継いでいっています。これからもそうしていくつもりです。</p> <p>「今日は何の作業をしますか？」とやる気満々の笑みでやってくる生徒たちと、働くことの意義を感じながら、雨の日もめげずに頑張っています。</p>
中学校	60代以上	<p>職業体験の新聞作りの際、次回まで預かっていたのですが保管場所を忘れてしまい直ぐに見つけ出せなくて、また最初から書いて欲しいと謝った時の事です。ほとんどの生徒が、先生大丈夫です。先生だって間違えますよ。と、言ってくれました。その後無事に保管してあった新聞は見つかったのですが、前より良くできて良かったです。と、言ってくれた生徒も居ました。</p>

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
高等学校	20代以下	<p>今まで成功体験をあまりしていなかったため、自己肯定感の低かった生徒。 私は、彼の唯一の趣味であるバスケットボールのだけでも楽しむことを教えました。その日を境に、見違えるほど熱心に練習に取り組むようになったのです。3年生最後の大会後、「私は大好きなバスケットボールに携わる仕事に就きたいです」と言った彼は、将来の夢に向かって進んでいます。</p>
高等学校	20代以下	<p>学校に馴染めずに授業も受けられない程悩んでしまった生徒の対応をすることがありました。私はその時に教員一年目であった事もあり、凄く慌てて、しどろもどろになりながらもどうにかしてあげたいと思いながら対応したのを憶えています。そんな事があったのでその生徒のその後が気になっていました。すると、なんとその生徒は私が顧問をしている美術部に入り、ついには部長を務めるほど打ち込み、生徒を引っ張ってくれました。その時にこの子に関われて良かったな、成長ってこんなに嬉しいものなんだと心から感じました。その生徒が部活で制作している絵に私を入れて描いてくれた事は私の大切な思い出となっています。</p>
高等学校	30代	<p>脊柱側湾症で、着用が介助が必要な、大きなコルセットを体に巻いていた彼女。 体育や部活動の前後に保健室に来ては、その大きなコルセットを身につける数分間、彼女といろいろな話をしました。 今日の天気の話。担任の先生の話。家族の話。友達の話。好きな歌、音楽、食べ物の話。体調の話。病気の話。進路の話。 中学3年生最後の日、「私は将来、先生のように、困った人に親身に寄り添える大人になりたいです。」と言った彼女の笑顔は、今でも心に残っています。</p>
高等学校	50代	<p>校長である私は、授業観察は教室前方から行うことにしている。授業を通じて、未来を創ることもたちがどのように成長しているかを観続けたい。</p>

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
高等学校	50代	<p>その生徒は、勉強が苦手で、入学してきた高校にもコンプレックスを持っていた。 ある日、小高交流事業で、小学生にもものづくりを教えることになった。 「面倒臭い」、「小学生に教えることなんてできない」と言うのを説き伏せて、何をどう伝えるかを何度もリハーサルさせて本番に臨んだ。 その後、提出させたレポートには、「わかってもらう喜びを知りました」と書かれていた。 今や、小学校の正教諭。この小高交流事業がきっかけだったという。 私は、喜びを夢に変え、その夢を実現させたこの生徒を、今でも誇りに思っている。</p>
高等学校	60代以上	<p>初めて担任を持った時の話です。 色々と手のかかる生徒ばかりで、初めての私は慣れない毎日を過ごしていました。 3年生になって、ほとんどの生徒の進路も決まり、全員が卒業出来ることになって卒業式を迎えました。 卒業式が無事終了し、卒業証書など生徒に渡すものを抱えて教室に行きました。 ところが、生徒が誰も居ません。隣のクラスからは生徒の声が聞こえるのに。 そう思っていたら、前のドアが開いて、生徒が一人ずつ入って来ました。その手には一輪の花が。 私を泣かそうという生徒たちの策略でした。卒業式後、生徒たちは別の場所に集合し、注文していた花を受け取ったそうです。 そんな気持ちが嬉しくて、一人ひとりと握手をしながら迎えました。不思議と涙は出ませんでした。 3年間、色々な事があったけど、そのひとときの出来事で全てが吹っ飛びました。 「みんなありがとう。これから頑張るね」と云って、みんなで記念写真を撮って卒業式は終わりました。</p>

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
		<p>学校は、年間を通じてたくさんのお客様が訪れるところです。また、学校公開や説明会などにも、たくさんの小さなお子さん、小中学生、保護者、一般の方、企業の方などがお見えになります。</p> <p>その際、生徒たちは積極的にお客様への対応をします。具体的には、商品説明、学習の説明、受付業務、ご案内やお茶出しなどです。</p> <p>ある作業班では、お客様がお見えになると生徒自ら商品説明をします。はじめの頃は、先生と一緒に考えた原稿を一生懸命読み上げていました。それが、回を重ねるに連れ、目に見えて変化していきました。</p> <p>原稿は持たずに話す、セールスポイントを言う、苦労した点を言う、商品が見やすいように持ち上げる…。</p> <p>最初は質問をされるとしどろもどろだったのが、回を重ねるなかで、前回聞かれたことをあらかじめ説明に盛り込むようになってきました。態度も自信に満ちてきます。3年生の姿を見て、下級生も憧れを持って挑戦するようになります。</p>
特別支援学校	40代	<p>入学選考説明会後の授業見学の際、生徒による校内案内ツアーを企画したこともありました。</p> <p>生徒は2人1組になり、中学生4、5家族を案内します。挑戦するのは高等部1年生。説明会は9月ですから、入学してちょうど半年頃の生徒たちです。立候補した生徒たちは、事前にルートを決め、原稿を書いて準備します。それぞれの専門教科はどんなことをやっているのか、特別教室はなにをする部屋なのか等、入学してから半年で得た知識や体験を総動員して取り組みました。</p> <p>当日には、緊張した顔をしながらも、どのグループも心を入れてお客様をご案内しました。最後に教員が1年生であることをお伝えすると、みなさんとても驚かれ、おほめのことばをいただきました。</p> <p>担当した生徒たちは、ほっとしたのかニコニコして口々に感想を伝えてくれます。一人は、次のように言いました。</p> <p>「やり切った！という感じがします。」</p> <p>人に説明するということは、自分の中でその対象（製品や学習内容など）について整理し、自分の言葉にし直す、ということです。学びは深まり、ほめられたり「ありがとう」と言われたりすることで自信がつく。相手がいるからこそできる学びだと思います。</p>

※エピソードをお寄せいただいた皆様の思いを尊重し、個人が特定できる記述、明らかな誤字・脱字等を除き、文章は改変せず掲載しています。

教職員所属

年齢

「未来を育てる、わたしたち。」エピソード

その他所属

30代

ある年の運動会。5・6年生合同の組体操。その組体操を見た保護者からこんなメッセージをいただいた。
 “皆で協力している姿が印象的な組体操、とても感動しました。演技の中で見えた、子供たちを見つめる先生の真剣な眼差し、それに応えようとする子供たちの眼差し、信頼関係があってこそ、息のあった組体操でした。先生には娘にとって2回目の担任をしていただき、大変感謝しています。卒業まで、数ヶ月ですが、よろしくお願い致します。”
 私は、このお手紙をいただいて、胸が熱くなった。
 私が意図していたことが保護者にも十分に伝わっていたからだ。
 組体操では、私は子供たちと声にはならない、目と目で合図を交わした。時には、うなづき、真剣な眼差しを与え、笑顔も見せた。終盤につれ、よりいっそう笛の合図を強めた。
 心と心で会話している様子が、見ていた保護者にもよく伝わったのだと思う。そして、それは校長先生にも伝わっていた。
 静と動。時には呼吸の音も聴こえないくらい静かに、時には全力のかけ声で。一人一人が100パーセントの力で組体操に取り組む。
 校長先生はすべての演技が終わった後、
 「目頭が熱くなったよ。」「言葉では表現できないよ。」
 校長先生の、その姿を見て、また、その言葉をいただき、私も思わず涙をこぼしそうになった。
 感動、心が動く。そんな時を子供たちと一緒に過ごすことが教師をする上で、私は最高の瞬間だと思っている。そして、一生懸命にやってきたことは、周りにいる人にも自然と伝わる。保護者や地域の方にも。
 子供たちの力は無限大である。その子供たちと一緒に時を共有し、一緒に成長することができる教師はとても尊い仕事だと考える。
 教師のやりがいとは、何でしょうか？
 埼玉県の先生方とたくさん語り合えることができれば、子供たちの未来は明るいと思う。

その他所属

30代

受け持った中学生も既に成人し、今ではお互いの人生や仕事について話をする関係になった。
 と言っても、部活動での喜びや悔しさを思い出しながら話す表情は中学生の時のままである。
 教え子の成長を喜びつつ、教え子には私はどのように映るのかとつい考えてしまう。
 私たちは未来を育てている。
 未来への責任を認識し、教え子に恥じない教員でありたい。

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
その他所属	30代	<p>4月8日、始業式。クラスの出発式。私は、6年生の学級担任として、子供たちに1つの宣言をした。それは「一生忘れられない一年にすること」。私と32人の子供たちで創りあげる、最高の1年。この思いを胸に1年が始まった。</p> <p>特に子供たちと「本気に」なったのが長縄。長縄大会での400回を目指し、毎日毎日練習に明け暮れた。しかし、目標を達成することはできなかった。</p> <p>うまくいかないもどかさしさからか、子供たちのイライラがぶつかり合う日も少なくなかった。結局当日まで目標を達成することはなかった。そして迎えた当日。</p> <p>子供たちを信じひたすら、声をかけた。</p> <p>結果は「411回」。男女関係なく涙を流し、喜び合った。私も涙を止めることができなかった。「先生のおかげ！」「先生がいなかったらできなかったよ！」「このクラス最高！」</p> <p>うれしい言葉をたくさんたくさんかけてもらった。</p> <p>この子たちと出会い、たくさんのつらさやたくさんの喜びを共有し、私はますます教員という仕事が好きになった。</p> <p>教員しか感じられない最高の気持ち。</p> <p>子供たちが、私にとって「一生忘れられない1年」にしてくれたのであった。</p>
その他所属	40代	<p>中学校3年生の担任をしていた頃、卒業する生徒たちから「先生のクラスで幸せでした。」と言われたことが私の自慢です。教師として、多感な時期の中学生に「幸せ」と言わせた自分を褒めました。</p>

※エピソードをお寄せいただいた皆様の思いを尊重し、個人が特定できる記述、明らかな誤字・脱字等を除き、文章は改変せず掲載しています。

教職員所属

年齢

「未来を育てる、わたしたち。」エピソード

その他所属

40代

行政に異動する以前は、中学校の数学教員として勤務していた。数学の授業を通して、勤務校の学校教育目標にもあった「自ら学ぶ生徒」、具体的には、ものの見方や考え方を養い、既知の事柄や経験をもとに、自分なりの問いをもち、追究し続ける自ら学ぶ人間を育てることを目指した。授業では、「これを学習します」と示すことは極力せず、「前の時間は何を学習した？ 今日は何を考える？」と生徒が問いを見出せるよう展開を工夫した。また、生徒から「先生、この答えはこれであっていますか？」と質問をされても、「自分で確かめる方法はないかな？ 誰かが正しいといったから正しいわけじゃなくて、正しいかどうかは自分で判断するんだよ」と機会をみて促していた。この指導が、元生徒たちの今にどれだけ活かしているかは正直、不明である。ただ、あるとき、元生徒の一人から知人を介して便りが届いた。便りには、大学を無事卒業して、就職したことや報道にかかわる仕事に就いたことが書かれていた。そして、「報道にかかわるものとして、何が正しいかは、自分で確かめる。身近な生活の中に潜む問題に目を向ける」と決意が書かれていた。授業を通して養ったものの見方や考え方が活かしていることが、この元生徒から感じられうれしく思った。多くの元生徒たちが、二次方程式の解の公式は忘れても、ものの見方や考え方、自ら学ぶ姿勢は忘れず、学び続け、予測困難な時代を生き抜いてほしい。

その他所属

40代

初めての担任で、中学3年生を持つことになりました。私のクラスには、1年生の頃から不登校で、適応指導教室に通っている生徒がいました。その生徒が、新しく担任となった私に興味を持って、時々学校に顔を出すようになりました。放課後に登校するので、私とキャッチボールをしながらいろいろな話をしました。「卒業したら高校には行かないで、アルバイトする。」と言っていましたが、最終的には定時制高校に進学しました。生徒が学校に在籍しているのは、生徒の人生のほんの一瞬ですが、その期間に教師がたくさん関わりを持ってやるのが、生徒の成長につながるのだと実感しました。

その他所属

40代

中学校で2年間担任した生徒。その生徒は、同級生や後輩の面倒見がよかった。しかし、中学生という多感な時期ということもあり、自分の思い通りにならないことが続き、イライラを爆発させることが増えていった。その都度、その生徒の話を聞いたり、冗談を言い合ったり、時には叱ったりしながら卒業まで関わった。

その生徒が20歳になり、成人式で再会した。その生徒は保育士を目指して勉強をしていた。なぜ保育士を目指しているのか尋ねると、その生徒は「何を言っているんですか？ 先生が面倒見が良いってたくさん言ってくれたじゃないですか！」と笑顔で答えてくれた。素敵な大人になっていることに加え、自分の声掛けがその生徒の目標に一躍かっていたことが、純粹にうれしかった。

教員は生徒の人生に関わる職業。その分、責任が重いですが、自分の行動や声掛けで生徒の未来を明るく照らすことができるやりがいがある職業だと改めて感じた。

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
その他所属	40代	<p>勉強が苦手と言いつけをして、いつも授業を抜け出していた生徒。</p> <p>私は、授業中、休み時間、部活動、いつも一緒に支援してきました。</p>
その他所属	40代	<p>いつの間にか、数学の宿題をやってくるようになり、得意な教科が1つ増えたと自慢していました。</p> <p>生徒自身が一番不安だった、高校受検も合格することができました。</p> <p>何事も親身になって接すれば、結果がついてくることを考えさせてくれました。</p>

子供の頃、社会の勉強が嫌いであった。教師になって、社会を教える立場となり、社会の時間は気が重くなった。自分が苦手な教科ということもあり、教材研究には他の教科よりも時間を費やし準備を行った。教材研究を進める中で、社会の嫌いな時間でも、自然と耳に入ってくる時間もあったことを思い出した。それは、教科書に載っていない児童生徒が喜ぶ「豆知識」を先生が、私たち子どもの想像を越える話をしてくれた時だ。その時ばかりは、嫌いな社会の話でも夢中になって聞くことができた。「よし、私のような社会の嫌いな子を出さないようにしよう！」と決め、書店に足を運び、社会に関する本を探し買って読み込んだ。本からは、面白く、子供たちが驚くような情報を仕入れた。子どもたちが夢中になって考え、興味をひく授業ができるよう私も夢中になった。少しずつ、授業の流れもわかり、「ここでこの豆知識を投入すれば効果的か」と、一時間の授業を組み立てているうちに教材研究が楽しくなり、授業も予想される子供たちの声が思うように返ってくることが多った。気が付けば、楽しんで授業を行えるようになっていた。翌年、子供たちが一つ学年が上がり新しい担任の先生から声をかけられた。「『前の担任の先生の社会の授業は、面白くてよくわかった。先生も同じように教えて！』と子供たちに言われました。どのように社会の授業を教えていたか、僕に教えてくださいませんか。」と。私の返事は、「OK！いつでもいいよ」と笑顔で答えた。嬉しくて今でも鮮明に覚えている。目の前にいる子供達から元気とやる気をもらい、楽しく仕事ができる事に感謝しかない。

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
その他所属	40代	<p>6年生を担当させていただいたときに、転入生が入ってきました。その子は当初運動が苦手でしたが、周囲の子供たちとの関わりや、運動の楽しさを味わったことにより、急激に成長していきました。50m走や水泳、なわとびの二重跳びなどで自身の記録をどんどん更新していくうれしそうな姿に、私も他の児童も感激しておりました。その子とは、たった一年の関わりでしたが、大きく成長する姿を間近で見させていただき、本当に幸せでした。自信をもって中学校へ進学していくことができたのではないかと思います。教師という仕事の素晴らしさを感じさせてもらった一年でした。</p>
その他所属	40代	<p>小学校3年生で担任した子から、「成人式を迎えました」と、実家に葉書が届きました。当時恥ずかしがり屋で人前に出るのがとても嫌だったこと、だから出なくて済むようにしてくれたことが嬉しかったこと、学校に行くのが楽しかったこと、今は大学でみんなの前で話すことができるようになったこと、夢に向かって努力していること、急に御礼の手紙を書きたくなったことなど、書かれていました。それを受け取った父から、「いい仕事だな」という言葉と葉書の写真をメールでもらい、親子で感慨深いになりました。その葉書は今も手帳に挟んでいます。仕事の原動力です。</p>
その他所属	40代	<p>私は中学校の体育の教員です。私が教員になろうと思ったきっかけは、中学生時代の部活動です。当時、私は下級生の面倒をよく見ていました。アドバイスをすることで上達していく下級生の姿を見ることが、とても嬉しかったからです。誰かのためにがんばることが自分には向いていると思って教員を志すようになり、現在に至ります。</p> <p>教員になってからは、生徒のできるようになった時の笑顔を見ることが、とてもうれしかったです。例えば跳び箱。開脚跳びができなかった生徒に対し、コツを教えたり、恐怖心を克服できるような環境を整えたりして指導しました。最終的に生徒が跳べるようになり、「やった！」と笑顔を見せている姿は、教員としてとてもやりがいを感じます。</p> <p>生徒の笑顔を見るために、これからもがんばっていこうと思います。</p>

※エピソードをお寄せいただいた皆様の思いを尊重し、個人が特定できる記述、明らかな誤字・脱字等を除き、文章は改変せず掲載しています。

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
その他所属	40代	<p>教員として誇りを感じたのは、子供たちと共に授業を作り上げる喜びです。授業中に生徒の何気ない質問や疑問を取り上げ、全員で解決していきました。子供たちは授業にのめり込んでいき、様々な発言をしてくれました。教師の予想を超える発言も多数あり、子供たちと共に学び合うことの楽しさや尊さを感じました。</p> <p>教材研究は大変ですが、やればやるだけ子供たちは応えてくれます。</p> <p>教師はブラックと言われることもありますが、お金では得ることのできない価値があると思います。逆にお金を払ってもこの経験や気持ちは味わえないものです。体験したことのない人にしかわからない良さがそこにはあります。</p> <p>これからも子どもたちために頑張りたいと思います。</p>
その他所属	40代	<p>小学校で肢体不自由の特別支援学級を初めて担任したとき、それまでほとんど教科指導を行っていなかった4名を担任することになった。同じ学年の教材をそろえ、少しずつ交流を増やしていくと、児童の意欲が高まり、自分たちもみんなと同じに頑張れるという気持ちも生まれてきた。次第に交流が当たり前になり、ほとんどの教科を同学年の児童と行うようになった。急な授業変更も同級生が迎えに来てくれるようになり、それぞれが交流学級の一員になれた。中学校に進学する際に支援学校と悩んだ児童もいたが、地元の中学校の特別支援学級に進学し、それぞれが高校の普通科に進学することができた。特別支援教育は実態の幅が大きく、悩みも多いが、教師の気づき次第で子どもの可能性が無限に広がることを実感できた。</p>
その他所属	40代	<p>生徒指導上、課題を多くもっていた学年を受けもったときのエピソードです。私たち教師の仕事は、子供たちに知・徳・体の学力を付けることです。日々の授業は、子供たちにとって一生に一度しかありません。「授業こそ子供たちと向き合う時間」という意識のもと、毎日の授業を教材研究を行って、子供たちの前に立ちました。子供たちは授業が分かり、学力が付いてくると、生徒指導上の問題も徐々に少なくなり、学校生活に活力と落ち着きをもつようになりました。子供たちの頑張りが保護者にも伝わり、保護者の信頼を得ることもつながりました。この経験より、子供たちの学力を付けることの大切さを感じています。今後も、子供たちの学力向上に向け、尽力していきます。</p>

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
その他所属	40代	<p>子供から学んだこと、それは「子供は無限の可能性を秘めている」ということ。 クラス対抗の8の字跳びの長縄大会。どうしてもリズムがつかめず、いつも引っかかってばかりで落ち込んでいる児童がいた。クラスではいつも喧嘩ばかり。彼が跳べるようになるまで、毎日、休み時間に練習した。休み時間にもかかわらず、一緒に跳んでくれる仲間もいた。彼は家でも練習し、何度も何度もやっているうちに、ついに跳べるようになった。本番前の練習。6分間、彼は一度も引っかかることなく跳べた。クラス新記録。クラス全員で彼を胴上げ。大会後、彼が感想用紙に書いた言葉。 「ぼくは、「人はがんばればできないことなんてない」ということに気づきました。」 人一倍、努力した彼に心から言いたい、「大切なことを教えてくれてありがとう」と。</p>
その他所属	40代	<p>6年生の担任をした時のことです。放課後一緒に勉強をした児童がいました。卒業式の日放課後、校長室で卒業証書を渡すことができました。 数日後もらった手紙には 「中学校に行ったら学校に行けるように頑張ります。」 と書いてありました。 今では高校生になり、自分の好きなことを見つけ、夢に向かって頑張っているそうです。</p>
その他所属	40代	<p>自分が担任をしていた頃の、保護者と街で偶然出会った。 大学生になった子供たちの中に、担任だった自分みたいな先生になりたいと教育学部に入學し、採用選考に向けて勉強中という子がいると知らせてもらった。 自分も憧れの先生みたいになりたくて、この道を選んだ。 たった一人でもそういう子がいるのはバトンをつなげたようで嬉しい。</p>

※エピソードをお寄せいただいた皆様の思いを尊重し、個人が特定できる記述、明らかな誤字・脱字等を除き、文章は改変せず掲載しています。

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
その他所属	40代	個性あふれるクラス。故にトラブルも多く処理に追われる日々。真正面から全力で対応。学年末の子どもから、「先生は最期まで僕たちの相手をしてくれた」と、一言。フー、フーみんな。
その他所属	40代	<p>私が教師として大切にしていることは、「常に全力で子供たちに向き合うこと」「子供たち一人一人をしっかり伸ばす」ことです。これまで、学級担任として、自分自身も毎日楽しみながら子供たちと楽しい時間を過ごしてきました。過日、成長した教え子たちと会う機会があり、昔話で盛り上がっていた際に、何人かの教え子から「あの時、先生から注意されたことが、本当はうれしかったんです。」「あの時、毎日毎日自主勉強をしたおかげで、中学校でも自分から勉強する癖がつかました。」と言われました。教師の何気ない言葉や子供たちを思っの取組が、子供たちの心に響いてくれてたんだと嬉しくなりました。その教え子たちは、現在、県内外で私と同じ教員として頑張っています。</p>
その他所属	40代	<p>私がまだ教員になりたての新米教師だったころのこと。 自分なりに一生懸命教材研究を行い、目の前にいる子ども達が楽しい授業になるよう一生懸命頑張っていました。 しかし、現実には日々の授業をこなしていくことが精一杯でした。</p> <p>そんな、理想と現実を目の当たりして、落ち込み打ちひしがれている私を励ましてくれたのは、子供たちの日記でした。 子供達の一言の中には、「今日の社会の授業楽しかったです」「先生が話してたことお母さんに話したらとても驚いていました。お母さんも知らなかったって」「先生が一生懸命授業しているから、ぼくもがんばろうという気持ちになります」などの言葉に救われ、やる気が湧き、活力となりました。</p> <p>子供たちに育てられている自分がいました。 そんな子供たちに恥じない、学び続ける教師であり続けたいと心に誓いました。</p>

※エピソードをお寄せいただいた皆様の思いを尊重し、個人が特定できる記述、明らかな誤字・脱字等を除き、文章は改変せず掲載しています。

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
その他所属	40代	<p>ちょっと羽目を外しすぎ、注意を受けることが多かった児童。 私はその子だけでなく、注意すべき児童には、ただ注意するだけでなく、何がどうしてダメなのか、児童にどうなってほしいのか丁寧に指導を繰り返しました。 ある日、そっと私に近づき、「先生は、女の子にも男の子にも悪いことはしっかり注意してくれるから信頼できる。初めて自分が悪いと思って謝れた。」と言ってくれました。その日から、私の教育信条は【教育は信頼の上に成り立つ】です。</p>
その他所属	40代	<p>授業が盛り上がりすぎず試行錯誤していました。自分も勉強しながら、一年間コツコツ授業準備を続けていました。そして、私は学校が異動になりました。その年の離任式で手紙をもらいました。「先生の熱い、魂のこもった授業が分かりやすかったです」と書いてくれた子供がいました。自分の努力をしっかりと受け止めてくれた子供たちに、心から感謝しました。その経験を糧に日々努力を続けています。</p>
その他所属	40代	<p>仕事に追われる毎日。学級経営や行事の指導、生徒指導に部活動経営……。でもどんなに苦しい日々も、生徒達が必死に汗を流し、涙を流し、喜んでいる姿を見ると心が安らぎ、やっつけて良かったなと思えることが多かった気がします。 先輩から「私たちの仕事は3年後に結果が見える。それを思って日々取り組むことが大事なんだ」と言われた言葉を旨にがむしゃらにやってきました。 普段反抗的な態度で、教師の指示も素直に聞けない生徒。しかし、合唱コンクールで「指揮者」を任せたと、教室で一人涙を流して練習していた姿は今でも忘れられない思い出です。また、合唱が途中でストップしたとき小さな声で「せーのっ」と言って合唱を無事再開させ、最後まで歌い上げた時のあなたの表情も今では懐かしい。 たいしたエピソードではないけれど、そんな生徒達の姿を思い出しながら、未来をつくる今の子供たちをどう支えていくかを考え毎日業務に励んでいます。</p>

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
その他所属	40代	<p>げんきプラザの主催事業で、初めは多くの児童が緊張や不安といった感じで、あいさつや移動など1つ1つの動きに消極的でした。でも、バーベキューの蒔組みやキャンプファイヤー準備など、みんなで協力して課題に取り組む中でやり方を少しずつ学び、徐々に自分たちだけで進める感覚をつかんでいく様子でした。</p> <p>1泊2日の短い期間でしたが、最後には子どもたちが自分から率先して動けるようになった姿が印象的で、頼もしくなったなあと感じる思いがしました。</p>
その他所属	40代	<p>授業では決して発表しない児童。保護者からも参観日に一度も発表する姿を見たことがないと話を聞いた。学級活動を大切に取り組んだ。二学期に学級会で初めて発表した。少しずつ授業で発表する姿が見られるようになってきた。三学期の最後の授業参観日。手を挙げ発表した。授業参観後に保護者が涙を溜めて私に近寄ってきた。</p> <p>卒業後、保護者にお会いした。その児童は、高校で夢に向かって頑張っていると。</p>
その他所属	40代	<p>私は昨年度まで小学校の教員でした。6歳の娘がおるのですが、私の仕事に興味を持っているようなので、小学校教諭の仕事を可能な範囲でよく娘に話しています。</p> <p>私は今44歳です。娘が教職の魅力を感じ小学校教諭となり同じ仕事をできたら嬉しいなと思っています。</p>

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
その他所属	40代	<p>小学校6年生で担任した児童について その子は性格が前向きで、冗談を言ったりしていつも周りの児童を楽しませる児童でした。習い事をしてはいませんでしたが、音楽が好きで中学校では吹奏楽部に入部しました。</p> <p>中学校での経験から、県内でも吹奏楽部の実績のある公立高校に進学を希望するようになりました。日々の学習に励み、見事に希望の学校に進学し吹奏楽部に入部しました。吹奏楽部は部員の人数も多く、希望する大会に参加するのも一苦労とのことでした。そのために中学校の時に担当していた楽器とは違う楽器に持ち替えたり、毎日何時間も練習したりと努力を惜しまなかったそうです。</p> <p>部活動での様子、海外にも演奏に行くことやプロの演奏家に指導してもらうことなど、楽しそうに話してくれました。</p> <p>高校卒業を間近に控えたある日、最後の定期演奏会のチケットを持ってきて、聴きに来て欲しいと渡されました。当日の演奏会では、大勢の観客の前で堂々と演奏し、最後に卒業学年の同級生と一緒に挨拶をしていました。</p> <p>6年間の努力の集大成を感じられたこと、ステージの上での姿が輝いて見えたことに心の底から感動しました。教員としてその子と出会っていなければ、その場に立ち会う事も出来なかったと思います。</p> <p>未来に向かって輝き進んでいく姿が見られたことに、この仕事のやりがいを感じます。</p>
その他所属	40代	<p>教育局にいる立場から、直接、子供たちと関わる機会はありません。</p> <p>ただ、研修会や学校で先生方の前でお話する機会をいただいた際、先生方が、うなずきならであったり、メモを取ってくださったりしているのを見ると、「明日からの教育につながるだろう、子供たちの未来につながるだろう」と、使命、誇り、責任、やりがいを再認識します。先生方を通じて、「未来を育てている」と、実感し、うれしくなります。</p>

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
その他所属	50代	<p>秩父では11月頃から、冷え込みが強まり紅葉の時期を迎えます。私は、紅葉の時期を迎える思い出すことがあります。それは「総合的な学習の時間」が導入された平成12年のことです。当時、総合的な学習の時間は、伝統文化や福祉、国際理解などテーマを基に学習をスタートさせる学校が多かったように思います。</p> <p>しかし、私が勤務していた学校では「興味・関心に基づく」「探究的な学習」の趣旨を生かし、生徒自身が感じた「？（はてな）」を基に学習に取り組もうということになりました。具体的には「？カード」を生徒に持たせ、4～12月の期間、生活の中で感じた疑問をそのカードに記入させました。授業中も生徒から「○○はどうなっているんですか？」と質問があった際は、カードに積極的に書かせ生徒自身が「？」を蓄積していきました。そして、3学期に自ら課題を設定し、調べ、まとめ、発表するという学習を展開しました。実に様々な課題が登場し、学習は大いに盛り上がりました。</p> <p>その中に「なぜ植物は紅葉するのか？」という課題を設定した生徒がいました。発表によると「黄色」になるのは、気温が低くなると葉緑素が破壊されそれまで隠れていた「カロチノイド」が主となり、その色素が黄色のためということでした。また、「赤色」になるのは、気温が低くなると葉の根元と枝の間が遮断され、光合成による糖分が枝の方に運ばれず、葉の中で葉緑素と糖分が化学反応を起こし「アントシアニン」という赤色の色素に変化するためということでした。その発表を聴いて、はじめて、紅葉の仕組みを知ることができました。</p> <p>そして、発表の結びが特に印象に残っています。それは、紅葉後、葉を落とすときには「来年のためのつぼみをつけてから冬を迎える。私も区切りの時は次の準備をするよう心がけたい」というものでした。</p> <p>毎年、年明けを迎えると先ほどの生徒の言葉を思い浮かべます。今年度の振り返りと同時に次年度の準備を始める時期ということを実感します。次年度に、新しい葉をしっかりと芽吹けるようしっかりと準備を心掛けていきたいと思っています。</p>
その他所属	50代	<p>教師になって、初めて中3を担当した年だった。第一志望校の受験に失敗し、うなだれた生徒の背中にかける言葉が見つからない。唯一かけられた月並みな言葉は、「中学生にとって人生はまだまだ先が長いこと」、そして「受験はその通過点に過ぎない」という内容だった。彼はうつむいたまま、静かに耳を傾けていた。それから3年の月日が流れたある日、私は彼から1通の手紙を受け取った。手紙には、第一志望の難関大学への入学報告と、中学校時代の感謝の想いが綴られていた。「あのとき先生からいただいた、【受験は人生の通過点に過ぎない】という言葉が胸に今日まで頑張れました。大学は第一志望校に合格しましたが、このことも1つの通過点と考えています。浮かれずにこれからも頑張ります。」新任教師の言葉を、これほどまでに真剣に受け止め、励みにしてくれていたことに素直に感動した。同時に教師が発する言葉や振る舞いの重さに、強い責任を感じた。この手紙は、彼からのメッセージとして、今でも心の奥にしっかりと留めている。</p>

教職員所属	年齢	「未来を育てる、わたしたち。」エピソード
その他所属	50代	<p>私が小学校教員の時、担任するクラスの中に逆上がりができない子が複数いました。私はその子たちと休み時間になると校庭に行き、毎日鉄棒にぶら下がりました。日を追うごとに同じクラスの児童も鉄棒にやって来て、応援したり、コツを教えたりするようになりました。逆上がりができるようになった時、みんな笑顔で拍手しました。努力することの大切さと友達を思う心の優しさを感じ、私自身とても温かい気持ちになったことを今でも覚えています。</p>
その他所属	50代	<p>学校の備品を壊したり、友人と衝突を繰り返す生徒が、ある日コンクリートの壁を泣きながら拳で殴っていました。授業中を抜け出してきていることが分かる時間帯ですから叱ることもできましたが、職員室に誘い席に座らせました。特に何も話しかけずに横で仕事をしていると、生徒から小声で話し始めました。その後、生徒の話を一生懸命に聞きました。生徒と約束しました。気持ちをコントロールできなくなったら、職員室のこの椅子に座れば話を聞くこと。その後も失敗をするたびに私の席の横に座りました。卒業式、その生徒から感謝の言葉をもらいました。「卒業おめでとう...」職員室から出て行く生徒の背中は今でも記憶しています。</p>